



広報
No.77
2025年4月

概要	・ ・ ・	2
会長・副会長挨拶	・ ・ ・	2
歴代会長・副会長一覧	・ ・ ・	4
役員・会員名簿	・ ・ ・	5
会員異動一覧	・ ・ ・	8
AJMC組織図	・ ・ ・	10
委員長・WG座長一覧	・ ・ ・	11
活動報告	・ ・ ・	12
令和6年度 委員会・WG等活動報告一覧	・ ・ ・	12
令和6年度 4月理事会	・ ・ ・	15
令和6年度 5月定例社員総会	・ ・ ・	17
令和6年度 新理事会	・ ・ ・	20
令和6年度 臨時理事会	・ ・ ・	21
令和6年度 11月理事会	・ ・ ・	22
委員会・WG活動内容	・ ・ ・	24
要望・声明・提言等	・ ・ ・	46
懇談会・意見交換会・講演会等	・ ・ ・	54
文部科学省 医学教育等関係業務功労者表彰式	・ ・ ・	61
記者会見・プレスリリース	・ ・ ・	63
会員だより	・ ・ ・	66
Vol.47 東京慈恵会医科大学	・ ・ ・	66
Vol.48 慶應義塾大学	・ ・ ・	68
Vol.49 兵庫医科大学	・ ・ ・	70
事務局だより	・ ・ ・	72



会長挨拶

昭和医科大学病院 病院長

相良 博典

AJMCは、全国の医学部長または医科大学長、大学病院長を会員とする我が国唯一の団体であり、医育機関に共通する教育・研究および診療における諸課題と関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに、意見の統一を図り、我が国における医学ならびに医療の改善向上に資することをその目的としています。

2024年4月より医師の時間外労働の上限規制（医師の働き方改革）が始まって1年が経過しました。その間、各大学病院では様々な工夫を行い対応しておりますが、医師の働き方改革を実行しながらより良い質の医療を提供する体制を整備するには多大な財政支援が必要だと改めて認識いたしました。大学病院の使命である高度な医療を提供していくためにも引き続き支援が得られるよう、関係各所へ提言や要望を行ってまいります。

医師が健康に働き続けることのできる環境を整備することは、医師本人にとってはもとより、患者・国民に対して提供される医療の質・安全を確保すると同時に、持続可能な医療提供体制を維持していく上で、重要であることは論を俟ちません。しかし、国民の健康と福祉を担う医療者を育成する全国の医学部・大学病院が、これら人材の教育に加え、未来の種蒔きたる研究を強力に推進しつつ、診療体制の一層の充実を図る使命を全うするには、多くの課題があります。課題先進国たる我が国において、これらの課題に、如何に筋道をつけ、安心安全な社会の幸福を実現していけるのかについては、正解を見出せている状況にはありません。

また、新たな地域医療構想に関する取りまとめのなかで、大学病院の医療機関機能として「医育及び広域診療機能」が位置付けられました。地域医療への貢献や医療従事者の育成などを担うことになりますが、機能維持していくためには人材の確保等が必要になりますので、こちらも要望を行ってまいります。

コロナ禍という試練が浮かび上がらせた日本の医療の強靱さと脆弱さなどを一例として、何を残し、次代に引き継ぐべき考え方であるのか振り返り、弱さを強みに変えていく議論を起こすことで、より良い方向性を見出していくことが出来るでしょう。それは、我が国の医療の将来を左右する国民的議論でもあります。

議論の過程において、AJMCの多様性がチカラになると信じています。皆様の英知を結集し、政府や関係機関と情報交換を重ねつつ、広く議論を起こして、課題に対する解決策を模索したいと思います。

質と安全な医療の持続可能性に向けたより良い方向性に向けて、粉骨砕身、務めさせて頂く所存でございます。

国民の皆さまのご理解とご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



副会長挨拶

大阪大学 総長

熊ノ郷 淳

令和6年5月より副会長を拝命しました大阪大学の熊ノ郷です。AJMCは、医学部を有する全国の82大学が会員となり、医学教育、医療の質向上、医学研究の発展に資することを目的として組織されています。

現在、医学部・大学病院は数多くの課題を抱えております。医学教育においては、CBT、Pre-CC OSCEが2023年から公的化され各大学その対応・実施に追われております。大学病院においては、病院経営はもとより、医師の働き方改革、地域医療への貢献が喫緊の課題となっており、このような中でいかにして未来の医学医療を担う多様な人材を育成・輩出していくかも求められております。

横手前会長、松村前副会長の強力なリーダーシップの下で、これらの課題についての議論や各省庁への働きかけが行われて参りましたが、このような課題は一朝一夕で解決するものではなく今後も継続した議論を行い、社会や国に対して、しっかりと要望や提案を出していく必要があると考えております。

微力ではございますが、相良会長をお支えしつつ、AJMCの先生方が一丸となって、より積極的に活動し、社会に貢献できるよう尽力してまいりますので、ご協力、ご指導の程、何卒、よろしくお願い申し上げます。

概要

歴代会長・副会長一覧

AJMC 広報 NO.77

歴代会長・副会長一覧

	任 期	会 長		副 会 長	
		大 学	氏 名	大 学	氏 名
昭和	42.10 ~ 43.5	東京大学	豊川 行平	東京大学	上田 英雄
	43.5 ~ 44.5	順天堂大学	懸田 克躬	慶應義塾大学	牛場 大蔵
	44.5 ~ 45.5	東京医科歯科大学	落合 京一郎 (~45.4)	東京医科大学	小嶋 理一
	45.5 ~ 46.5	順天堂大学	懸田 克躬	千葉大学	相磯 和嘉
	46.5 ~ 47.5	千葉大学	松本 胖	日本医科大学	斉藤 湊
	47.5 ~ 48.5	日本大学	永澤 滋	東京大学	中井 準之助
	48.5 ~ 49.5	東京大学	高安 久雄	東京慈恵会医科大学	南 武
	49.5 ~ 50.5	慶應義塾大学	三辺 謙	千葉大学	香月 秀雄
	50.5 ~ 51.5	千葉大学	香月 秀雄	日本大学	萩原 忠文
	51.5 ~ 52.5	東京慈恵会医科大学	名取 礼二	東京医科歯科大学	島蘭 安雄
	52.5 ~ 52.7	東京医科歯科大学	吉田 久	東京女子医科大学	千谷 七郎
	52.10 ~ 53.5	東京大学	吉川 政己	東京女子医科大学	千谷 七郎
	53.5 ~ 54.5	日本大学	小林 茂三郎	群馬大学	志田 圭三
	54.5 ~ 55.5	東京医科歯科大学	加納 六郎	日本医科大学	伊藤 忠厚
	55.5 ~ 56.5	昭和大学	上條 一也	横浜市立大学	福嶋 幸吉
	56.5 ~ 57.5	千葉大学	井出 源四郎	自治医科大学	松本 清一
	57.5 ~ 58.5	慶應義塾大学	倉田 正一	東京医科歯科大学	渡辺 勲
	58.5 ~ 59.5	東京大学	三島 濟一	日本医科大学	伊藤 忠厚
	59.5 ~ 60.5	東京女子医科大学	吉岡 守正	群馬大学	泉雄 勝一
	60.5 ~ 61.5	筑波大学	阿南 功一	昭和大学	石井 淳
平成	61.5 ~ 62.5	東京慈恵会医科大学	阿部 正和	横浜市立大学	横井 晋
	62.5 ~ 63.5	東京医科歯科大学	中谷 林太郎	東京女子医科大学	喜多村 孝一
	63.5 ~ 元5	慶應義塾大学	植村 恭夫	千葉大学	高見沢 裕吉
	元5 ~ 2.5	千葉大学	村山 智	東京慈恵会医科大学	小林 建一
	2.5 ~ 3.5	東京医科大学	三輪 哲郎	信州大学	寺山 和雄
	3.5 ~ 4.5	東京大学	遠藤 實	北里大学	坂上 正道
	4.5 ~ 5.5	日本医科大学	菊地 吾郎	東京医科歯科大学	鈴木 章夫
	5.5 ~ 6.5	東京医科歯科大学	鈴木 章夫	聖マリアンナ医科大学	須階 二郎
	6.5 ~ 7.5	北里大学	佐藤 登志郎	群馬大学	宇田川 英一
	7.5 ~ 8.5	千葉大学	高橋 英世	東京慈恵会医科大学	酒井 紀
	8.5 ~ 9.5	日本大学	瀬在 幸安	東京医科歯科大学	大島 博幸
	9.5 ~ 10.5	東京大学	石川 隆俊	昭和大学	藤巻 悦夫
	10.5 ~ 11.5	慶應義塾大学	猿田 享男	信州大学	小宮山 淳
	11.5 ~ 12.5	東京医科歯科大学	佐藤 達夫	北里大学	柿田 章
	12.5 ~ 13.5	聖マリアンナ医科大学	村山 正博	東京大学	武谷 雄二
	13.5 ~ 14.5	千葉大学	福田 康一郎	東京慈恵会医科大学	大石 幸彦
	14.5 ~ 14.7.16	東京女子医科大学	溝口 秀昭	東京医科歯科大学	西岡 清
	14.7.17 ~ 14.11.14	東京医科歯科大学	西岡 清(代理)	東京医科歯科大学	西岡 清
	14.11.15 ~ 15.5	東京医科歯科大学	西岡 清	東京慈恵会医科大学	大石 幸彦
令和	15.5 ~ 16.5	自治医科大学	布施 勝生	東京大学	廣川 信隆
	16.5 ~ 18.5	北里大学	吉村 博邦	新潟大学	下條 文武
	18.5 ~ 20.5	信州大学	大橋 俊夫	日本大学	澤 充
	20.5 ~ 22.5	岩手医科大学	小川 彰	千葉大学	河野 陽一
	22.5 ~ 23.7	横浜市立大学	黒岩 義之	東京慈恵会医科大学	森山 寛
	23.8 ~ 24.5	東京慈恵会医科大学	森山 寛	千葉大学	中谷 晴昭
	24.5 ~ 26.5	埼玉医科大学	別所 正美	和歌山県立医科大学	岡村 吉隆
	26.5 ~ 27.5	大阪市立大学	荒川 哲男	杏林大学	甲能 直幸
	27.5 ~ 28.5	大阪市立大学	荒川 哲男	東京邦大学	小原 明也
	28.5 ~ 30.5	順天堂大学	新井 一俊	京都大学	稲垣 暢
	30.5 ~ 元5	山形大学	山下 英俊	愛知医科大学	羽生田 正行
	元5 ~ 2.5	山形大学	山下 英俊	愛知医科大学	藤原 祥一
令和	2.5 ~ 3.4	藤田医科大学	湯澤 由紀夫	熊本大学	富澤 恭仁
	3.4.30 ~ 4.5	藤田医科大学	湯澤 由紀夫	秋田大学	尾野 恭一
	4.5 ~ 6.5	千葉大学	横手 幸太郎	畿大	松村 到
	6.5 ~	昭和医科大学	相良 博典	大阪大学	熊ノ郷 淳

概要

AJMC 広報 NO.77

役員・会員名簿

(役員任期 令和6.5.31～令和8.5定例社員総会まで)

会長・副会長

令和7.4.1現在

会 長	相良 博典	昭和医科大学病院	病院長
副会長	熊ノ郷 淳	大阪大学	総長

理 事

令和7.4.1現在

西川 祐司	旭川医科大学	学 長	渡辺 敦	札幌医科大学附属病院	病 院 長
佐々木真理	岩手医科大学	前医学部長	土谷 順彦	山形大学医学部附属病院	病 院 長
三木 隆司	千葉大学	医学部長	平松 祐司	筑波大学附属病院	病 院 長
南學 正臣	東京大学	医学部長	麻生 好正	獨協医科大学病院	病 院 長
東田 修二	東京科学大学	前医学部長	齋藤 繁	群馬大学医学部附属病院	病 院 長
池田 隆徳	東邦大学	医学部長	相良 博典	昭和医科大学病院	病 院 長
河野 博隆	帝京大学	医学部長	山岡 邦宏	北里大学病院	病 院 長
岩淵 邦芳	金沢医科大学	医学部長	林 篤志	富山大学附属病院	前病院長
今野 弘之	浜松医科大学	前 学 長	間瀬 光人	名古屋市立大学病院	前病院長
熊ノ郷 淳	大阪大学	前医学部長	田中 俊宏	滋賀医科大学医学部附属病院	病 院 長
鶴田 大輔	大阪公立大学	医学部長	池内 浩基	兵庫医科大学病院	病 院 長
石原 俊治	島根大学	医学部長	永井 敦	川崎医科大学附属病院	病 院 長
志馬 伸朗	広島大学	医学部長	門脇 則光	香川大学医学部附属病院	病 院 長
石竹 達也	久留米大学	前医学部長	野口 満	佐賀大学医学部附属病院	病 院 長
池松 和哉	長崎大学	医学部長	平井 俊範	熊本大学病院	病 院 長

監 事

令和7.4.1現在

監 事	新井 一	順天堂大学	理事長補佐
	富澤 一仁	熊本大学	理事・副学長

顧 問

令和7.4.1現在

顧 問	湯澤 由紀夫	藤田医科大学	副理事長
	横手 幸太郎	千葉大学	学長

相 談 役

令和7.4.1現在

相談役	尾野 恭一	秋田大学	理事・副学長
	松村 到	近畿大学	学長

概要

役員・会員名簿

AJMC 広報 NO.77

会員名簿

国立43、公立8、私立31、計82大学

令和7.4.1現在

地区	大学	区分	医学部長 (医科大学長)	役職等	附属病院長	役職等
東北・北海道地区 10	北海道大学	国立	田中伸哉	理事 世話校	南須原康行	理事
	札幌医科大学	国立	齋藤西		渡東袴	
	旭川医科大学	国立	石橋沖		須田野	
	弘前医科大学	国立	下井田		東森張	
	岩手医科大学	国立	石柴羽		袴森張	
	東北医科大学	国立	永瀬森		佐渡土	
	秋田大学	国立			大平	
	山形大学	国立				
	福島県立医科大学	公立				
関東地区 28	筑波大学	国立	武井陽介	理事 理事 理事/世話校 理事	平川松祐司	理事 理事 世話校 理事 理事
	自治医科大学	国立	永種調福		川合生藤	
	獨協医科大学	国立	森三坂		麻齋塩篠	
	防衛医科大学	国立	木元學		吉田藤	
	埼玉医科大学	国立	秋木弦		吉田藤	
	千葉医科大学	国立	池田澤		山西小松	
	国際医療福祉大学	国立	松金小高		相山近	
	東京科学大学	国立	河金小北		大渡木	
	東京医科大学	国立	奥		菊花	
	日本医科大学	国立				
	東邦大学	国立				
	東京医科大学	国立				
	東京女子医科大学	国立				
	慈恵医科大学	国立				
	慶應義塾大学	国立				
	昭和医学校	国立				
	順天堂大学	国立				
	杏林大学	国立				
	帝京大学	国立				
	横浜国立大学	公立				
	北里大学	国立				
	聖マリアンナ医科大学	国立				
	東京海上大学	国立				
	山梨大学	国立				

会員異動一覧

令和6.4.2～令和7.4.1

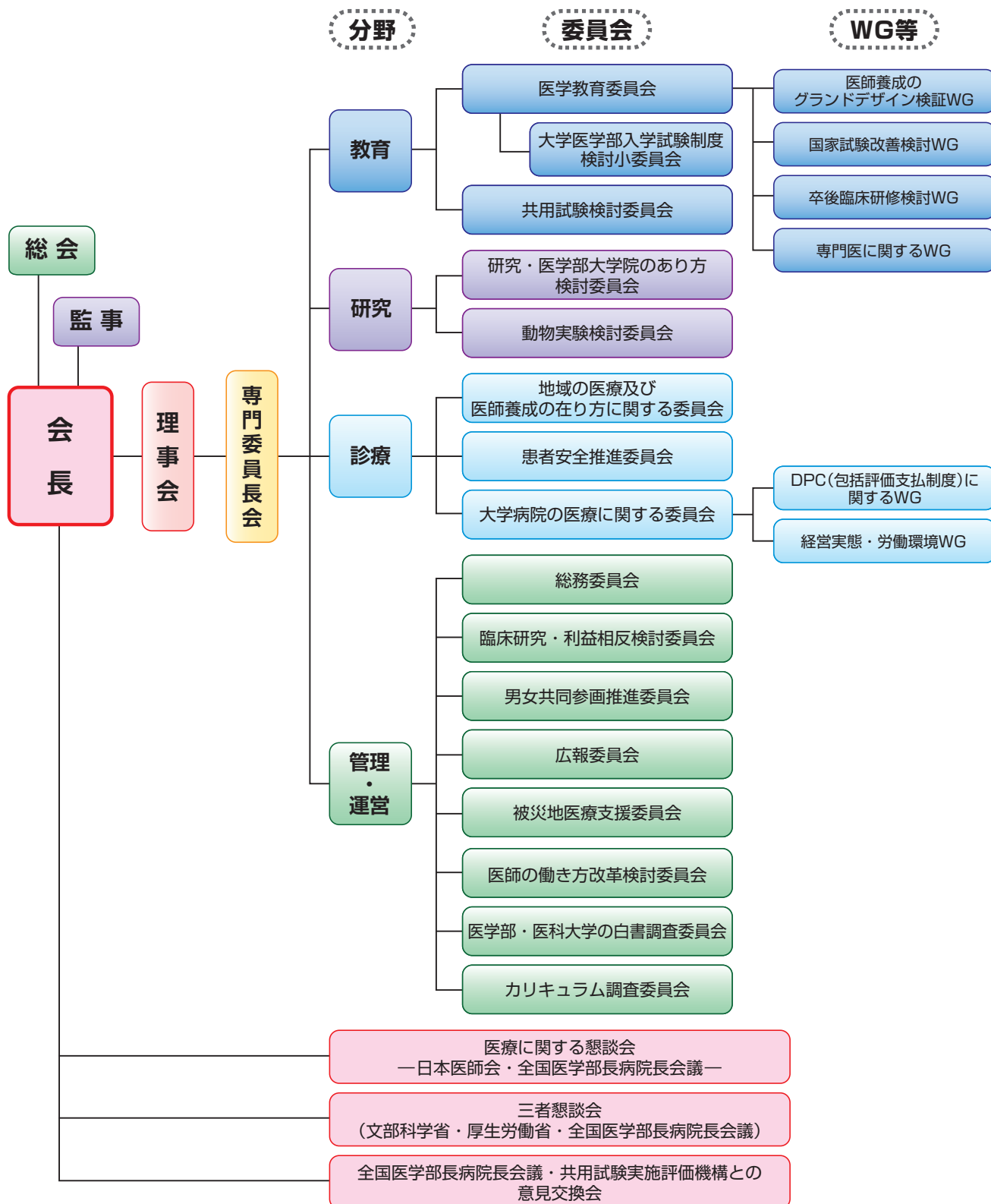
医学部長（医科大学長・医学群長・医学類長・学校長）									
大学名	新				旧				異動年月日
北海道大学	タ田	ナカ中	シン伸	ヤ哉	畠山	鎮次			R7.4.1
岩手医科大学	シモ下	オキ沖		オサム収	佐々木	真理			R7.4.1
東北医科薬科大学	シバ柴	タ田		チカシ近	小澤	浩司			R7.4.1
東京科学大学	アキ秋	タ田	ケイ恵	イチ一	東田	修二			R7.4.1
東京医科大学	ミヤ宮	ザワ澤	ケイ啓	スケ介	林	由起子			R6.9.1
東京女子医科大学	サカ坂	イ井	シュウ修	ジ二	中神	朋子			R7.4.1
横浜市立大学	カネ金	コ子		タケン猛	中島	淳			R7.4.1
北里大学	オ小	ガワ川	モト元	ユキ之	浅利	靖			R6.7.1
東海大学	オオ大	カミ上	ケン研	ジ二	森	正樹			R7.4.1
富山大学	ナカ中	ガワ川		タカシ崇	関根	道和			R7.4.1
福井大学	キク菊	タ田	ケンイチロウ健一郎		藤枝	重治			R7.4.1
岐阜大学	ウシ牛	コシ越	ヒロ博	アキ昭	山口	瞬			R7.4.1
浜松医科大学	ワタ渡	ナベ邊	ヒロ裕	シ司	今野	弘之			R7.4.1
名古屋大学	カツ勝	ノ野	マサ雅	ヒサ央	木村	宏			R7.4.1
名古屋市立大学	カタ片	オカ岡	ヒロ洋	ミ望	高橋	智			R7.4.1
藤田医科大学	ヒロ廣	セ瀬	ユウ雄	イチ一	岩田	仲生			R7.4.1
大阪大学	イシ石	イ井		マサル優	熊ノ郷	淳			R7.4.1
近畿大学	ニシ西	オ尾	カズ和	ト人	松村	到			R6.10.1
鳥取大学	ナガ永	シマ島	ヒデ英	キ樹	景山	誠二			R7.4.1
岡山大学	ワ和	ダ田		ジュン淳	豊岡	伸一			R7.4.1
広島大学	シ志	メ馬	ノブ伸	アキ朗	粟井	和夫			R6.7.1
徳島大学	ハシ橋	モト本	イチ一	ロウ郎	西岡	安彦			R7.4.1
九州大学	ス須	ドウ藤	ノブ信	ユキ行	赤司	浩一			R7.1.1
久留米大学	ヤマ山	モト本		ケン健	石竹	達也			R7.4.1
宮崎大学	モリ盛	タケ武		ヒロシ浩	菱川	善隆			R6.10.1
琉球大学	ナカ中	ニシ西	コウ浩	イチ一	筒井	正人			R7.4.1

令和6.4.2～令和7.4.1

附属病院長			
病院名	新	旧	異動年月日
北海道大学病院	ナ ス ハラ ヤス ユキ 南須原 康 行	渥 美 達 也	R7.4.1
岩手医科大学附属病院	モリ ノ ヨシ ヒロ 森 野 禎 浩	小笠原 邦 昭	R6.8.1
福島県立医科大学附属病院	オオ ヒラ ヒロ マサ 大 平 弘 正	竹 石 恭 知	R7.4.1
東邦大学医療センター大森病院	サカ イ ケン 酒 井 謙	瓜 田 純 久	R6.7.1
東京女子医科大学病院	ニシ ムラ カツ ジ 西 村 勝 治	肥 塚 直 美	R6.11.8
順天堂大学医学部附属順天堂医院	ヤマ ジ ケン 山 路 健	桑 鶴 良 平	R7.4.1
北里大学病院	ヤマ オカ クニ ヒロ 山 岡 邦 宏	高 相 晶 士	R6.7.1
新潟大学医歯学総合病院	キク チ トシ アキ 菊 地 利 明	富 田 善 彦	R7.4.1
富山大学附属病院	ヤマ モト ヨシ ヒロ 山 本 善 裕	林 篤 志	R7.4.1
福井大学医学部附属病院	フジ エダ シゲ ハル 藤 枝 重 治	大 嶋 勇 成	R7.4.1
浜松医科大学医学部附属病院	タケ ウチ ヒロ ヤ 竹 内 裕 也	松 山 幸 弘	R7.4.1
名古屋市立大学医学部附属病院	マツ カワ ノリ ユキ 松 川 則 之	間 瀬 光 人	R7.4.1
藤田医科大学病院	イマ イズミ カズ ヨシ 今 泉 和 良	白 木 良 一	R7.4.1
愛知医科大学病院	アマ ノ テツ ヤ 天 野 哲 也	道 勇 学	R7.4.1
三重大学医学部附属病院	サ ク マ ハジメ 佐久間 肇	池 田 智 明	R7.4.1
神戸大学医学部附属病院	クロ ダ リョウ スケ 黒 田 良 祐	眞 庭 謙 昌	R7.4.1
徳島大学病院	サイ リョウ コウ イチ 西 良 浩 一	香 美 祥 二	R7.4.1
大分大学医学部附属病院	イ ハラ ケン ジ 井 原 健 二	三 股 浩 光	R7.4.1
宮崎大学医学部附属病院	カ モト トシ ユキ 賀 本 敏 行	帖 佐 悦 男	R6.10.1
鹿児島大学病院	イシ ツカ ケン ジ 石 塚 賢 治	坂 本 泰 二	R7.4.1
琉球大学病院	スズ キ ミキ オ 鈴 木 幹 男	大 屋 祐 輔	R7.4.1

AJMC組織図

令和7.4.1現在



委員長・WG座長一覧

令和7.4.1現在

分野	専門委員会・ワーキンググループ (WG)	委員長・座長	大学名等
専門委員長会			
教育	医学教育委員会	南學 正臣 委員長	東京大学
	大学医学部入学試験制度検討小委員会	東田 修二 委員長	東京科学大学
	医師養成のグランドデザイン検証 WG		
	国家試験改善検討 WG	河野 博隆 座 長	帝京大学
	卒後臨床研修検討 WG	大嶋 勇成 座 長	福井大学
	専門医に関する WG	古川 博之 座 長	旭川医科大学
	共用試験検討委員会	関根 道和 委員長	富山大学
研究	研究・医学部大学院のあり方検討委員会	熊ノ郷 淳 委員長	大阪大学
	動物実験検討委員会	木村 宏 委員長	名古屋大学
診療	地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会	大屋 祐輔 委員長	琉球大学
	患者安全推進委員会	木下 浩作 委員長	日本大学
	大学病院の医療に関する委員会	富田 善彦 委員長	新潟大学
	DPC（包括評価支払制度）に関する WG	富田 善彦 座 長	新潟大学
	経営実態・労働環境 WG	林 篤志 座 長	富山大学
管理・運営	総務委員会	眞庭 謙昌 委員長	神戸大学
	臨床研究・利益相反検討委員会	寺内 康夫 委員長	横浜市立大学
	男女共同参画推進委員会	林 由起子 委員長	東京医科大学
	広報委員会	金井 隆典 委員長	慶應義塾大学
	被災地医療支援委員会	張替 秀郎 委員長	東北大学
	医師の働き方改革検討委員会	前田 嘉信 委員長	岡山大学
	医学部・医科大学の白書調査委員会	羽渕 友則 委員長	秋田大学
	カリキュラム調査委員会	伊野 美幸 委員長	聖マリアンナ医科大学
医療に関する懇談会－日本医師会・全国医学部長病院長会議－		相良 博典 会 長	昭和医科大学
三者懇談会（文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議）		相良 博典 会 長	昭和医科大学
全国医学部長病院長会議・共用試験実施評価機構との意見交換会		相良 博典 会 長	昭和医科大学

令和6年度 委員会・WG等活動報告一覧

令和6.4.1～令和7.3.31

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和6年 4月	4月	「新型コロナウイルス感染症と働き方改革に伴う男女共同参画推進環境の変化の実態調査」発刊		
	4月12日	九州地区部会		長崎大学
	4月18日	関東地区部会		東邦大学
	4月18日	東海・北陸地区部会		金沢大学
	4月19日	中国・四国地区部会		徳島大学
	4月26日	理事会、定例記者会見		TKPガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 (Web併用)
	4月26日	東北・北海道地区部会		札幌医科大学
※3月5日 近畿地区部会（世話校：近畿大学）				
令和6年 5月	5月	「2023年度医学教育カリキュラムの現状」発刊		
	5月	「広報 NO.76」発刊		
	5月31日	定例社員総会、理事会		都市センターホテル (Web併用)
令和6年 6月	6月12日	大学病院を支援する議員連盟	自由民主党	衆議院議員会館
	6月19日	臨時理事会		
令和6年 7月	7月8日	第1回医学部・医科大学の白書調査委員会		
	7月26日	医学部・医科大学の白書調査委員会 グループ会議（基本情報・第1章、第3章）		
	7月30日	医学部・医科大学の白書調査委員会 グループ会議（第6章、第7章）		
	7月31日	医学部・医科大学の白書調査委員会 グループ会議（第2章）		

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和6年 8月	8月	「医師国家試験に関するアンケート調査結果報告」発刊		
	8月5日	医学部・医科大学の白書調査委員会グループ会議（第5章）		
	8月7日	第1回医学教育委員会		
	8月8日	医学部・医科大学の白書調査委員会グループ会議（第4章）		
	8月21日	第1回医師の働き方改革検討委員会		
	8月23日	第2回医学部・医科大学の白書調査委員会		
	8月29日	第34回三者懇談会		
	8月30日	第1回臨床研究・利益相反検討委員会		
令和6年 9月	9月6日	第1回医療に関する懇談会 －日本医師会・全国医学部長病院長会議－	日本医師会	日本医師会館 (Web併用)
	9月10日	「医師国家試験に関する要望書」提出		
	9月11日	記者会見(医師の働き方改革調査結果報告)		厚生労働記者会
令和6年 10月	10月7日	第1回地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会		
	10月10日	理事会（メール審議）		
	10月15日	第1回患者安全推進委員会		
	10月29日	第1回研究・医学部大学院のあり方検討委員会		
令和6年 11月	11月5日	第2回地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会		
	11月7日～8日	大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG		協力：富山大学
	11月22日	第1回共用試験検討委員会		
	11月28日	第1回国家試験改善検討WG		
	11月29日	理事会、定例記者会見		TKP ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 (Web併用)

活動報告

令和6年度 委員会・WG等活動報告一覧

AJMC 広報 NO.77

令和6年 12月	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
	12月4日	大学病院を支援する議員連盟	自由民主党	衆議院議員会館
	12月17日	第1回男女共同参画推進委員会		
令和7年 1月	1月6日	第1回動物実験検討委員会		
	1月7日	第2回臨床研究・利益相反検討委員会		
	1月10日	理事会（メール審議）		
	1月14日	第1回経営実態・労働環境WG		
	1月15日	第35回三者懇談会		
	1月15日	第1回専門医に関するWG		
	1月16日	第1回カリキュラム調査委員会		
	1月27日	第1回大学医学部入学試験制度検討小委員会（メール審議）		
	1月31日	医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟第13回総会	自由民主党	参議院議員会館
令和7年 2月	2月7日	第2回医療に関する懇談会 －日本医師会・全国医学部長病院長会議－	日本医師会	日本医師会館 （Web併用）
	2月28日	第1回卒後臨床研修検討WG		
令和7年 3月	3月3日	第2回研究・医学部大学院のあり方検討委員会		
	3月6日	第1回総務委員会（メール審議）		
	3月6日	第2回共用試験検討委員会（メール審議）		
	3月7日	地域枠制度についての意見交換会		TKP ガーデンシティ PREMIUM京橋 ANNEX
	3月10日	医学部・医科大学の白書調査委員会 集計結果検討会議（第3章）		
	3月11日	医学部・医科大学の白書調査委員会 集計結果検討会議（第6、7章）		
	3月13日	医学部・医科大学の白書調査委員会 集計結果検討会議（第2章）		
	3月14日	医学部・医科大学の白書調査委員会 集計結果検討会議（基本情報・第1章、4章）		
	3月18日	医学部・医科大学の白書調査委員会 集計結果検討会議（第5章）		
	3月21日	理事会（メール審議）		
	3月24日	第2回患者安全推進委員会		
	3月27日	「令和6年度 公的化された共用試験に関する要望書」提出		

※4月理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和6年度 4月 理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和6年4月26日(金) 13:00～16:15
開催場所：TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原 3A
開催方法：現地開催＋Web会議（Zoom）

【開 会】

1. 会 長 報 告

- (1) 三者懇談会 一文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議—について
会長報告資料1：三者懇談会 次第
- (2) 医療に関する懇談会 一日本医師会・全国医学部長病院長会議—について
会長報告資料2：医療に関する懇談会 次第

2. 確 認 事 項

- (1) 令和5年11月理事会議事録の確認について
確認資料1：令和5年度11月理事会議事録

3. 審 議 事 項

- 第1号議案：役員候補者の推薦について
審議資料1：役員候補者一覧
- 第2号議案：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関わる課題対応委員会の廃止について
審議資料2：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関わる
課題対応委員会の廃止について
- 第3号議案：令和5年度事業報告案
審議資料3：令和5年度事業報告（案）
- 第4号議案：令和5年度収支決算案
審議資料4：令和5年度収支決算報告書（案）
- 第5号議案：令和6年度事業計画案
審議資料5：令和6年度 事業計画書（案）
- 第6号議案：令和6年度収支予算案
審議資料6：令和6年度収支予算書（案）
- 第7号議案：令和6年度定例社員総会の開催について
審議資料7：令和6年度定例社員総会の開催について

4. 各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

- (1) 医学教育委員会・共用試験検討委員会（南學委員長・佐藤委員長）

報告資料1：医学教育委員会・共用試験検討委員会

- (2) 専門医に関するWG（古川座長）

報告資料2：専門医に関するWG

- (3) 研究・医学部大学院のあり方検討委員会（熊ノ郷委員長）

報告資料3：研究・医学部大学院のあり方検討委員会

- (4) 動物実験検討委員会（木村委員長）

報告資料4：動物実験検討委員会

- (5) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）

報告資料5：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会

- (6) 経営実態・労働環境WG（相良座長）

（口頭報告）

- (7) 臨床研究・利益相反検討委員会（寺内委員長）

報告資料6：臨床研究・利益相反検討委員会（会長代理報告）

- (8) 男女共同参画推進委員会（唐澤委員長）

（会長代理報告）

- (9) 広報委員会（金井委員長）

報告資料7：広報委員会

- (10) 被災地医療支援委員会（松村委員長）

報告資料8：被災地医療支援委員会

- (11) 医師の働き方改革検討委員会（馬場委員長）

報告資料9：医師の働き方改革検討委員会

- (12) カリキュラム調査委員会（伊野委員長）

報告資料10：カリキュラム調査委員会

5. その他報告

- (1) 前回の理事会以降に提出した要望書について

その他報告資料1：提出した要望書

- (2) CST事業の法人設立準備委員会への参加について

その他報告資料2：CST事業の法人設立準備委員会への参加について

- (3) 理事会及び総会の開催日程について

その他報告資料3：今後の理事会及び総会の開催日程について（お知らせ）

【 閉 会 】

※5月定例社員総会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和6年度 5月 定例社員総会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和6年5月31日(金) 13:00～17:30

開催場所：都市センターホテル 3F コスモス

開催方法：対面形式による現地開催（オンライン併用）

【開 会】

1. 会 長 報 告（挨拶・資料確認・報告）

・三者懇談会 一文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議―

会長報告資料1：第32回～第33回 三者懇談会 次第

・医療に関する懇談会 一日本医師会・全国医学部長病院長会議―

会長報告資料2：医療に関する懇談会 次第

・要望書等

会長報告資料3：R5年6月～R6年5月要望書

・外部会議等

会長報告資料4：外部会議委員等一覧

2. 確 認 事 項

令和5年度定例社員総会議事録の確認について

確認資料1：令和5年度 定例社員総会議事録

3. 報 告 事 項

令和5年度事業報告について

報告資料1：令和5年度事業報告

4. 審 議 事 項

第1号議案：令和5年度収支決算承認の件

審議資料1：令和5年度収支決算（案）

第2号議案：令和6年度事業計画承認の件

審議資料2：令和6年度事業計画（案）

第3号議案：令和6年度収支予算承認の件

審議資料3：令和6年度収支予算（案）

第4号議案：役員の選任について

審議資料4：理事候補一覧表

5. 講演会

- (1) 日本医師会 松本 吉郎 会長
「これからの大規模災害に備えて」
講演会資料1：これからの大規模災害に備えて
- (2) 文部科学省高等教育局医学教育課 俵 幸嗣 課長
「医学教育の現状と課題」
講演会資料2：医学教育の現状と課題
- (3) 厚生労働省医政局総務課 姫野 泰啓 課長
「医療制度の最近の動向について」
講演会資料3：地域医療構想と働き方改革

休憩

6. 委員会報告（各専門委員会委員長・各WG座長報告）

- (1) 医学教育委員会（南學委員長）
共用試験検討委員会（佐藤委員長）
委員会報告資料1：医学教育委員会・共用試験検討委員会
- (2) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（東田委員長）
委員会報告資料2：大学医学部入学試験制度検討小委員会
- (3) 専門医に関するWG（古川座長）
委員会報告資料3：専門医に関するWG
- (4) 研究・医学部大学院のあり方検討委員会（熊ノ郷委員長）
委員会報告資料4：研究・医学部大学院のあり方検討委員会
- (5) 動物実験検討委員会（木村委員長）
委員会報告資料5：動物実験検討委員会
- (6) 患者安全推進委員会（坂本委員長）
委員会報告資料6：患者安全推進委員会
- (7) 大学病院の医療に関する委員会・DPCに関するWG（富田委員長）
委員会報告資料7：大学病院の医療に関する委員会・DPCに関するWG
- (8) 経営実態・労働環境WG（相良座長）
（口頭報告）
- (9) 臨床研究・利益相反検討委員会（寺内委員長）
委員会報告資料8：臨床研究・利益相反検討委員会
- (10) 男女共同参画推進委員会（唐澤委員長）
委員会報告資料9：男女共同参画推進委員会
- (11) 広報委員会（金井委員長）
委員会報告資料10：広報委員会
- (12) 被災地医療支援委員会（松村委員長）
委員会報告資料11：被災地医療支援委員会

- (13) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関わる課題対応委員会 (瀬戸委員長)

委員会報告資料12: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関わる課題対応委員会

- (14) 医師の働き方改革検討委員会 (馬場委員長)

委員会報告資料13: 医師の働き方改革検討委員会

- (15) 医学部・医科大学の白書調査委員会 (羽渕委員長)

(口頭報告)

- (16) カリキュラム調査委員会 (伊野委員長)

委員会報告資料14: カリキュラム調査委員会

- (17) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 (大屋委員長)

委員会報告資料15: 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会

7. 提 案 議 題 (地区部会報告)

近畿地区 (近畿大学 松村学長・医学部長)

提案議題資料1: 公的化された共用試験の運営について

九州地区 (宮崎大学 菱川医学部長)

提案議題資料2: 共用試験OSCE における模擬患者の確保について

東北・北海道地区 (札幌医科大学 齋藤医学部長)

提案議題資料3: 医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版)

臨床実習への対応について

東北・北海道地区 (福島県立医科大学 藤森医学部長)

提案議題資料4: アンプロフェッショナルな行動をとる学生の評価、対応について

東北・北海道地区 (札幌医科大学 渡辺病院長)

提案議題資料5: 病院経営改善に向けた取組について

8. そ の 他

今後の理事会及び総会の開催日程について

その他資料1: 理事会及び総会の開催日程

【 閉 会 】

※5月新理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和6年度 5月 新理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和6年5月31日(金) 定例社員総会終了後～

開催場所：都市センターホテル 3F コスモス

開催方法：対面形式による現地開催（オンライン併用）

【 議 事 次 第 】

1. 議長の選任について
2. 【第1号議案】会長及び副会長の選任について
3. 【第2号議案】顧問・相談役について
4. 【第3号議案】委員会委員長及びWG座長について
5. その他

【 資 料 】

■ 規則関係

- 資料1 役員一覧
- 資料2 定款
- 資料3 理事会に関する規則
- 資料4 役員に関する規則
- 資料5 会長・副会長の選出に関する申し合わせ
- 資料6 会長及び副会長選任手続きに関する取扱い
- 資料7 専門委員会等規則
- 資料8 専門委員会等委員長、座長の推薦に関する申し合わせ
- 資料9 次期会長候補者選出・理事候補者について

■ 組織図等

- 資料10 AJMC組織図
- 資料11 委員長・WG座長一覧
- 資料12 出欠表
- 資料13 座席表

※6月臨時理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和6年度 6月 臨時理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和6年6月19日(水) 9:00～9:30

開催場所：Web会議 (Zoom)

【 議 事 次 第 】

1. 第1号議案：専門委員会委員長・WG座長の選出について
2. 会長報告1：大学病院を支援する議員連盟総会について
3. 会長報告2：CATOの会費値上げについて
4. その他

【 資 料 】

- 資料1-1 専門委員会委員長・WG座長 候補者一覧
- 資料1-2 AJMC組織図
- 資料2-1 大学病院を支援する議員連盟総会 議事次第・出席者名簿
- 資料2-2 令和6年度大学病院関連要望
- 資料2-3 令和6年度大学病院関係要望（説明資料）
- 資料3 CATOの会費値上げ及び運営体制に関するこれまでの協議内容について
- 資料4 出欠表

※11月理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

全国医学部長病院長会議 令和6年度 11月 理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和6年11月29日(金) 14:00～16:50
開催場所：TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原 3A
開催方法：現地開催＋Web会議（Zoom）

【開 会】

1. 会 長 報 告

- (1) 大学病院を支援する議員連盟について
会長報告資料1：大学病院を支援する議員連盟総会 議事次第・要望書
- (2) 大臣等との面会について
会長報告資料2：大臣等との面会
- (3) 三者懇談会 一文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議一について
会長報告資料3：三者懇談会
- (4) 医療に関する懇談会 一日本医師会・全国医学部長病院長会議一について
会長報告資料4：医療に関する懇談会

2. 確 認 事 項

- (1) 新理事会議事録の確認について（令和6年5月31日開催）
確認資料1：新理事会議事録
- (2) 臨時理事会議事録の確認について（令和6年6月19日開催）
確認資料2：臨時理事会議事録

3. 審 議 事 項

- 第1号議案：職員給与表の改定について
審議資料1：職員給与表の改定について
- 第2号議案：CST事業の法人設立準備委員会への参加について
審議資料2：第1回 CST事業の法人設立準備委員会
- 第3号議案：令和7年度定例社員総会の開催について
審議資料3：令和7年度定例社員総会の開催について

4. 検 討 事 項（厚生労働省の検討会等における議論への対応について）

- (1) 特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会
検討資料1：大学附属病院本院の現状等及び大学附属病院本院の特定機能病院としての取扱い上の論点等（一部抜粋）

- (2) 医道審議会（医師分科会医師臨床研修部会）

検討資料2：広域連携型プログラムについて（一部抜粋）

5. 各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

- (1) 広報委員会（金井委員長）

報告資料1：広報委員会

- (2) 医学教育委員会（南學委員長）

報告資料2：医学教育委員会

- (3) 国家試験改善検討WG（河野座長）

報告資料3：国家試験改善検討WG

- (4) 卒後臨床研修検討WG（大嶋座長）

報告資料4：卒後臨床研修検討WG

- (5) 専門医に関するWG（古川座長）

報告資料5：専門医に関するWG

- (6) 共用試験検討委員会（関根委員長）

報告資料6：共用試験検討委員会

- (7) 動物実験検討委員会（木村委員長）

報告資料7：動物実験検討委員会

- (8) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）

報告資料8：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会

- (9) 患者安全推進委員会（木下委員長）

報告資料9：患者安全推進委員会

- (10) 経営実態・労働環境WG（林座長）

報告資料10：経営実態・労働環境WG

- (11) 総務委員会（眞庭委員長）

報告資料11：総務委員会

- (12) 臨床研究・利益相反検討委員会（寺内委員長）

報告資料12：臨床研究・利益相反検討委員会

- (13) 男女共同参画推進委員会（林委員長）

報告資料13：男女共同参画推進委員会

- (14) 医師の働き方改革検討委員会（前田委員長）

報告資料14：医師の働き方改革検討委員会

- (15) カリキュラム調査委員会（伊野委員長）

報告資料15：カリキュラム調査委員会

6. その他報告

- (1) 理事会及び総会の開催日程について

その他報告資料1：今後の理事会及び総会の開催日程について（お知らせ）

【 閉 会 】

委員会・WG活動内容

医学教育委員会



委員長

東京大学 医学部長
南學 正臣

委員

高橋 誠 (北海道大学)
古川 博之 (旭川医科大学)
佐藤 慎哉 (山形大学)
竹石 恭知
(福島県立医科大学)
江頭 正人 (東京大学)
東田 修二 (東京科学大学)
河野 博隆 (帝京大学)
伊野 美幸
(聖マリアンナ医科大学)
関根 道和 (富山大学)
大嶋 勇成 (福井大学)
錦織 宏 (名古屋大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
鈴木 敬一郎
(兵庫医科大学)
西山 成 (香川大学)

I. 活動内容

本委員会は、AJMCの医学教育に関わる部門、すなわち4つのワーキンググループ（医師養成のグランドデザイン検証WG、国家試験改善検討WG、卒後臨床研修検討WG、専門医に関するWG）、大学医学部入学試験制度小委員会、共用試験検討委員会、そしてカリキュラム調査委員会が連携し、入試から学部教育、卒後臨床研修、専門医教育まで、医学教育全般に関することを検討する委員会です。働き方改革が施行される中で、お忙しい教員の先生方に過剰な負担をかけることなく高い教育の質を維持することが重要と考えております。公的化された共用試験による教員への負担も懸念される中、医学教育委員会は、これらの課題に関して、状況分析と議論を深め、各大学が実施する医学教育の充実に貢献したいと考えております。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年8月7日(水) 10:00～11:30

議 題：1. 日本医療機能評価機構より

国家試験CBTトライアル試験の研究結果及び実施について

2. 医学教育委員会の今後の活動方針について

3. その他

大学医学部入学試験制度検討小委員会



委員長

東京科学大学
名誉教授
東田 修二

委員

西川 祐司（旭川医科大学）
小川 元之（北里大学）
関根 道和（富山大学）
夜久 均
（京都府立医科大学）
井上 啓史（高知大学）
小玉 正太（福岡大学）

I. 活動内容

大学医学部入学試験制度検討小委員会は、公正な医学部の入学試験のあるべき姿を提示し、実現することを目指して2018年に創設されました。「大学医学部入学試験制度に関する規範」を策定し、同規範の遵守状況のアンケート調査を実施して、その後は性別や年齢による差別はなく、公正な入学試験が行われていることを確認しました。

一方、医学部入試は、公正さだけでなく、学力試験に偏らずに人間性も評価できる選抜方法が求められます。また、多様な人材を選抜するために、一般入試に加えて、学校推薦、総合型選抜、学士編入学などさまざまな入試区分を設けています。2023年にこれらに関するアンケート調査を行い、2024年に報告書を公開し、医学部入試の多様化の現状やその問題点を明らかにしました。今後は、これらの問題点の改善につながるアンケート調査や提言をしたいと考えております。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■委員会開催：

日時：令和7年1月27日（月）～2月10日（月） メール審議

- 議題：1. 「2022年・2023年医学部入学試験に関するアンケート調査結果報告」で浮かび上がった問題点に対する改善提案やご意見
2. 「2022年・2023年医学部入学試験に関するアンケート調査結果報告」に対するご意見
3. 「2024年・2025年医学部入学試験に関するアンケート調査」の企画案

国家試験改善検討 WG



座長

帝京大学 医学部長
河野 博隆

委員

畠山 鎮次 (北海道大学)
石橋 恭之 (弘前大学)
高橋 和久 (順天堂大学)
平形 明人 (杏林大学)
小泉 修一 (山梨大学)
関根 道和 (富山大学)
平山 雅浩 (三重大学)
上本 伸二 (滋賀医科大学)
内山 和久 (大阪医科薬科大学)
田邊 剛 (山口大学)
大脇 哲洋 (鹿児島大学)

I. 活動内容

医師国家試験は、卒前教育・卒後臨床研修などの一連の医師養成過程の中に位置付けられており、医学部のカリキュラムに大きな影響を与えています。医道審議会医師分科会の方針に従い、CBT、OSCEは共用試験として公的化が進みました。本来は、この変化に対応して医師国家試験も改革が進むことになっています。しかし、実際には国家試験は前例踏襲の旧態依然とした体制であり、大きな変化がありません。医学生が各段階で適正な評価を受けることはよいことですが、現状はいわゆる「評価疲れ」の状態となり医学生の大きな負担となっています。

モデル・コア・カリキュラムが整備され、JACMEの認証により、各大学医学部の教育体制の標準化が進んでいます。医学知識はCBT、臨床技能・態度はPre-CCとPost-CCのOSCEで公的な評価を受けるようになった今日、医師国家試験に求められる役割は大きく変化しているのではないのでしょうか。

本WGは、毎年、学生、教員を対象として「医師国家試験に関するアンケート調査」を独自に行い、この結果に基づいて厚生労働省など関係機関に要望書を提出し、医師国家試験の改善に向けて活動してきました。今後も、アンケート結果を基に、医師国家試験の現状と今後のあり方について検証を重ね、実質的な医師国家試験の改善に結びつくように要望をまとめるだけでなく、関係省庁と現実的なディスカッションを行っていきたいと考えています。みなさまにもぜひ建設的な意見をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年11月28日(木) 9：30～11：00

議 題：1. 医師国家試験に関する要望書提出の報告について
2. 第119回医師国家試験アンケート調査について
3. その他

■アンケート調査：「第119回医師国家試験に関するアンケート調査」

期 間：令和7年2月～令和7年5月

対 象：①医師国家試験受験生

②医学部長または医学教育担当の教員

結 果：冊子にて配布予定

■要望書：「医師国家試験に関する要望書」

日 時：令和6年9月10日(火)

提出先：厚生労働省・文部科学省

■発刊物：令和6年8月「医師国家試験に関するアンケート調査結果報告」

卒後臨床研修検討 WG



座長

福井大学 元病院長
大嶋 勇成

委員

永瀬 智 (山形大学)
酒井 謙 (東邦大学)
松本 守雄 (慶應義塾大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
細井 裕司 (奈良県立医科大学)
松永 和人 (山口大学)
花崎 和弘 (高知大学)
酒井 昭典 (産業医科大学)

I. 活動内容

医学教育委員会の下で、卒後臨床研修の今後の在り方を検討するワーキンググループです。2004年に導入された臨床研修制度により、医師の地域偏在と診療科偏在、基礎医学研究者の激減、医師としてのプロフェッショナリズムの低下などが問題になっています。臨床研修制度の2022年の改訂から、基礎研究医プログラムや地域医療重点プログラムが開始され、2027年度から広域連携プログラムが新たに導入されます。都道府県別の募集定員上限（シーリング）の設定に加え、これらの改訂の運用面の課題やその実効性に関しても検証が必要です。大学病院における研修医の減少傾向は続いており、ここ数年のマッチング率も40%を切っています。2024年から開始された医師の働き方改革が卒前・卒後から専門医養成までのシームレスな教育体制の構築にどのような影響を及ぼしているかも注視する必要があります。本WGでは広域連携プログラムに関する現況と課題に関する調査を実施しました。今後は、調査結果等を基に卒後臨床研修の在り方を議論していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和7年2月28日(金) 16：00～17：00

議 題：1. 広域連携型プログラムに関する調査結果について
2. その他

■アンケート調査：「広域連携型プログラムに関する調査」

期 間：令和7年1月8日(水)～令和7年1月21日(火)

対 象：広域連携型プログラム対象区域の会員（病院長）

専門医に関する WG



座長

旭川医科大学
理事・副学長
古川 博之

委員

張替 秀郎（東北大学）
吉野 一郎
（国際医療福祉大学）
池田 隆徳（東邦大学）
金井 隆典（慶應義塾大学）
木内 博之（山梨大学）
大嶋 勇成（福井大学）
東田 有智（近畿大学）
坂本 泰二（鹿児島大学）

I. 活動内容

日本専門医機構が平成26年5月に発足したことに伴い創設されたWGです。

全国医学部長病院長会議（AJMC）としては、大学病院が19基本領域ならびにサブスペシャルティ（以下サブスペ）領域における研修基幹病院の多くを担っていることもあり、日本専門医機構と密接に関わりながら、AJMC内の意見を集約し、内外に発信・提言していくのが使命と考えております。

現在WGが取り扱っている内容としては、地域枠医師の不同意離脱者に対する機構の対応、サブスペシャルティ領域の機構認定、医師偏在是正のために行われているシーリング制度やマッチング制度の適応、臨床研究コースの活性化を含む研究力強化などについて議論しており、令和7年度の活動についても、上記の内容についてWGで議論し、必要に応じて発信・提言を行っていきたいと考えております。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■WG開催：

日時：令和7年1月15日（水）18：00～19：00

議題：1. 前回WGの要約について

2. 今後のWGの方向性について

1）地域枠（不同意離脱）に関する検討

2）サブスペシャルティの方向性

3）シーリングに関する検証

4）その他

共用試験検討委員会



委員長

富山大学 元医学部長
関根 道和

委員

佐藤 慎哉 (山形大学)
増田 道明 (獨協医科大学)
川合 謙介 (自治医科大学)
江頭 正人 (東京大学)
北村 聖 (東京大学)
高村 昭輝 (富山大学)
木村 宏 (名古屋大学)
鶴田 大輔 (大阪公立大学)
金子 一成 (関西医科大学)
大脇 哲洋 (鹿児島大学)

I. 活動内容

令和3年5月成立の改正医師法により、共用試験合格者の臨床実習における医業が可能となった。法改正を受けて、医道審議会医師分科会医学生共用試験部会が設置され、令和4年5月に「公的化後の共用試験に関する意見」をまとめ、令和5年2月に医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が共用試験実施機関として指定されて、令和5年度から公的化された共用試験が実施された。

共用試験の公的化により診療参加型臨床実習が実質化された一方、大きな負担が各所に発生した。大学では、設備・備品費や人件費・旅費等の費用が増大した。CATOでは、各種委員会、認定評価者講習会、外部評価者の人件費・旅費等の費用が増大した結果、大きな経常損失が発生した。その結果、損失を各大学の会費に転嫁する形で損失を補填することが必要となり、制度の持続可能性に懸念が生じている。

そこで、令和5年度の共用試験検討委員会では、会員大学に対して「公的化された共用試験の実施に関する準備状況調査」を実施し、共用試験のあり方に関する要望書を令和6年3月に提出した。それらを踏まえて令和6年10月の医道審議会医師分科会医学生共用試験部会では、「令和7年度以降の共用試験に関する意見」がとりまとめられ、令和7年2月のCATOによる医学生共用試験OSCE全国説明会において負担軽減の具体策が提示された。

令和6年度の共用試験検討委員会では、これらの動向を踏まえつつ、令和5年度（公的化初年度）の共用試験の実態把握を目的として「令和6年度公的化された共用試験実施に関する実施状況調査（令和5年度実績）」を実施した。その結果、CATO会費や受験料といった表に出るコスト以外にも、各大学が負担している設備・備品費や人件費・旅費等といった表に出ないコストも多額であることが明らかとなり、負担軽減の具体策により一定程度のコスト削減が実現されることが考えられるが、制度の持続可能性の点からさらなる改善が必要であることが明らかとなった。これらの調査結果を踏まえて、今後の共用試験のあり方等について要望書を取りまとめた。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■委員会開催：

日 時：令和6年11月22日（金）9：00～10：30

議 題：1. 公的化された共用試験に関する実施状況調査について
2. 公的化された共用試験の実施に関する要望書について
3. その他

日 時：令和7年3月6日（木）～3月12日（水）

議 題：「令和6年度 公的化された教養試験に関する要望書」について

■アンケート調査：

「令和6年度 公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和5年度実績）」

期 間：令和6年12月17日（火）～令和7年1月10日（金）

結 果：会員へ送付

■要望書：「令和6年度 公的化された共用試験に関する要望書」

日 時：令和7年3月27日（木）

提出先：厚生労働省、文部科学省、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構

研究・医学部大学院のあり方検討委員会



委員長

大阪大学 総長
熊ノ郷 淳

副委員長

渥美 達也（北海道大学）

委員

畠山 鎮次（北海道大学）

石井 直人（東北大学）

南學 正臣（東京大学）

金井 隆典（慶應義塾大学）

高橋 和久（順天堂大学）

木村 宏（名古屋大学）

伊佐 正（京都大学）

村上 卓道（神戸大学）

鈴木敬一郎（兵庫医科大学）

西岡 安彦（徳島大学）

門脇 則光（香川大学）

尾池 雄一（熊本大学）

I. 活動内容

医学部大学院はこれまで我が国の生命医科学研究のドライビングフォースとして大きな役割を果たすとともに、physician scientistと呼ばれる多様・多彩で優秀な人材を輩出してきました。しかし、平成16年に導入された初期研修医制度、昨今の新専門医制度の導入により、医学部卒業生は卒後も長期の臨床研修を強いられ、医学部卒業生が研究を開始する年齢の高齢化、また研究を志向する者の激減を招くことになっています。しかも、（これは良い面でもあります）学部教育自体が国際認証やコアカリの導入もあり、より臨床実習を含めて充実してきています。例えるなら、A教習所を終えたあと、路上にでることなく、さらにB教習所での教習所内での実習を課されるということになります（教習所内の期間を延ばすことが運転技術の向上に繋がることなどありえません）。この問題に対する対策として、限られた定員・施設での研究医制度も導入され、それはそれで大変意義のあることですが、新しい研究領域の創出、優秀な研究者の育成は、広いすそ野と地盤があってこそですし、そのような土壌こそが国の品格とも感じます。本委員会では、これらの課題を検討し、医学研究及び医学部大学院のあり方を議論して提言していきたいと考えております。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■委員会開催：

日 時：令和6年10月29日（火）14：30～16：00

議 題：1. 委託事業アンケート調査について
2. 科研費の改善・充実に関する意見交換

日 時：令和7年3月3日（月）9：00～10：00

議 題：1. 委託事業アンケート調査について
2. その他

■アンケート調査：

「大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査」
「研究医育成のための実態調査」

期 間：令和6年11月15日（金）～12月16日（月）

対 象：会員大学

結 果：会員に提供

動物実験検討委員会



委員長

名古屋大学 元医学部長
木村 宏

委員

畠山 鎮次 (北海道大学)
武井 陽介 (筑波大学)
國田 智 (自治医科大学)
森 茂久 (埼玉医科大学)
金井 正美 (東京科学大学)
奥山 隆平 (信州大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
中尾 和貴 (大阪大学)
越本 知大 (宮崎大学)
浦野 徹
(自然科学研究機構)

I. 活動内容

当委員会では引き続き、「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づいて、様々な角度から我が国の動物実験の在り方について議論を深める予定です。代替手段のない場合、動物実験は医学研究に極めて重要なものであり、今後も、人類の福祉に大きく貢献することが期待されます。一方、我々は、今後とも動物実験の3Rの原則に基づいて、動物愛護の観点からも一層の厳格な運用に努めなければなりません。これからも、動物愛護の精神を尊んだ、透明性の高い動物実験の運営にご協力をお願いいたします。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和7年1月6日(月) 15：00～16：00

議 題：1. 動物の愛護及び管理に関する法律の改正について
2. その他

地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会



委員長

琉球大学 前病院長

大屋 祐輔

委員

齋藤 豪 (札幌医科大学)

石橋 恭之 (弘前大学)

佐々木真理 (岩手医科大学)

長谷川仁志 (秋田大学)

小池 創一 (自治医科大学)

篠塚 望 (埼玉医科大学)

井口清太郎 (新潟大学)

関根 道和 (富山大学)

牛越 博昭 (岐阜大学)

平山 雅浩 (三重大学)

佐野 千晶 (島根大学)

松本 正俊 (広島大学)

阿波谷敏英 (高知大学)

前田 隆浩 (長崎大学)

大脇 哲洋 (鹿児島大学)

オブザーバー

川妻 由和 (琉球大学)

I. 活動内容

「地域における医師養成の在り方に関する委員会」は、令和3年度より、活動の類似性とキャリアパスの連続性を考慮し、「地域医療検討委員会」と合併し、「地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会」となっています。

顕著化していた医師の地域偏在を緩和する一つの方策として、「地域枠」の制度や臨時定員増が行われてきました。これまで、本委員会は各大学が地域の実情に合わせてさまざまな形の「地域枠」を設定していること、また、医師不足地域で働く医師数が増加しているなどの情報を発信してきました。現在、厚生労働省から、地域枠定員の減、とくに臨時増員分の削減の方向が医師多数地域を中心に行われて始めています。また、地元出身者から選抜するが、従事義務が比較的軽い地元出身者枠の役割も注目されて、東北、北陸地区を中心に増加してきています。今後の医師不足や働き方改革の進行状況によって、各大学は、それぞれの地域における医師不足、地域偏在、診療科偏在などに合わせて、地域枠や地元出身者枠の定員数や義務の内容などを検討する必要があります。委員会としても、調査の継続により、地域枠制度の有用性や実効性、また課題などを明らかにし、この制度の改善などの提言につながるよう情報発信に務めていきたいと思っています。各大学におかれましては煩雑な調査となっておりますが、引き続き、ご協力のほどをお願い申し上げます。

なお、地域枠制度運用の課題についての意見交換会がコロナ禍のために対面では行えない状況でしたが、令和5年度から対面での開催を再開し、令和6年度も対面で行われました。各大学、都道府県、地域医療支援センター、文部科学省、厚生労働省の担当者にご参加いただき、非常に熱心な議論が行われました。毎回、離脱対策の議論がとくに盛り上がり、全国的には離脱者数は以前に比べて減少していますが、各大学、各都道府県ともに、苦勞されていることの裏返しだと感じました。今年度も、このような情報共有と課題について語り合う場を設定し、現場からの声を発信していく予定にしております。旅費等は各組織持ちとはなりますが、担当されている方は、ぜひご参加ください。

厚生労働省では、2024年12月に地域の医師確保に関する政策を取りまとめて、医師法や医療法の改正も行い、2025年から各都道府県に対して医師確保計画を作成するように通知を出しています。この中で、大学の役割として、従来の地域枠制度などの養成課程での対策、専門医制度の中での専攻医のマッチングの仕組みへの対応、また、地域医療対策協議会等を介した派遣の取り組みに期待が寄せられています。また、現在、検討中の「新たな地域医療構想」では、大学病院本院の役割として、医育機能、医師の派遣機能、より広域で行う医療機能の3つが示されています。これらにどのように対応していくのか、今後、各大学および各都道府県での検討が始まりますが、これについても、適切な情報を提供できるように、委員会としてもAJMCの他の委員会と共同して対応していきたいと思っています。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年10月7日(月) 14:00～16:00

- 議 題：1. 委員自己紹介
2. 研修医の実態調査の終了について
3. 今年度の委託事業の実施内容について
4. 厚生労働省における医師偏在対策等の議論について
5. 次回の委員会開催について
6. その他

日 時：令和6年11月5日(火) 13:00～14:00

- 議 題：1. 各WGの進捗情報報告
2. 厚生労働省における新たな地域医療構想等の議論について
3. その他

■意見交換：地域枠制度についての意見交換会

日 時：令和7年3月7日(金) 11:00～17:00

場 所：TKPガーデンシティ PREMIUM京橋ANNEX

■アンケート調査：

「大学病院の医療機関機能に関するアンケート」

期 間：令和6年10月30日(水)～11月11日(月)

対 象：会員

結 果：会員に提供

「令和6年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査」

期 間：令和6年11月12日(火)～11月26日(火)

対 象：会員医学部長

結 果：冊子にて配布予定

患者安全推進委員会



委員長

日本大学 医学部長
木下 浩作

委員

橋本 重厚
(福島県立医科大学)
中島 勲 (埼玉医科大学)
滝沢 牧子 (埼玉医科大学)
岩瀬博太郎 (千葉大学)
米村 滋人 (東京大学)
櫻井 淳 (日本大学)
吉田 謙一 (東京医科大学)
大嶽 浩司 (昭和医科大学)
小林 弘幸 (順天堂大学)
後藤 隆久 (横浜市立大学)
大磯義一郎 (浜松医科大学)
中島 和江 (大阪大学)
中村伸理子 (福岡大学)
水谷 渉
(日本医師会総合政策研究機構)

アドバイザー

有賀 徹 (昭和医科大学)
坂本 哲也 (帝京大学)

I. 活動内容

本委員会は、医療の安全性と信頼性をさらに向上させることを目的に、「患者安全推進委員会」と改称され、活発な議論を重ねました。

最近の主な検討課題として、以下の3点が挙げられます。

1.医療事故調査制度に関するアンケート調査の結果を踏まえた対応策の検討

2.医療と刑事司法の関係性についての議論と相互理解の促進

3.無過失補償制度のあり方についての課題整理と制度設計の検討

患者安全を推進するため、これらのテーマを中心に医療環境の整備も含めた多角的な議論を進めています。今年度も各関連団体と緊密に連携し、新たな課題の抽出や解決策の検討に取り組んでまいります。

こうした取り組みを通じて、重要事項について委員会内外で協議し、相互理解を深めながら議論を継続することで、患者安全の確立と医療の質の向上に貢献したいと考えております。関係各位のご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年10月15日(火) 12：30～14：30

議 題：1. 医療事故調査制度に関するアンケート調査の2023年度結果と2024年度調査について
2. 今後の活動方針について

日 時：令和7年3月24日(月) 13：00～15：00

議 題：1. 医療事故調査制度に関するアンケート調査結果について
2. 日本医療安全調査機構への意見書について
3. その他

■アンケート調査：

「医療事故調査制度に関するアンケート調査」

期 間：令和6年11月15日(金)～12月16日(月)

対 象：全国国公立大学病院長／各病院医療安全管理責任者

大学病院の医療に関する委員会



委員長

新潟大学 元病院長
富田 善彦

委員

渡邊 博之 (秋田大学)
相良 博典 (昭和医科大学)
澤村 成史 (帝京大学)
林 篤志 (富山大学)
丸山 彰一 (名古屋大学)
眞庭 謙昌 (神戸大学)
吉川 公彦
(奈良県立医科大学)
杉山 隆 (愛媛大学)
中村 雅史 (九州大学)

I. 活動内容

新型コロナウイルス感染症への対応から、大学病院の社会的役割が、あらためて社会に認知されたものと思います。数多くの大学病院が、重症例を中心とした、一番困難な症例の治療にあたり、また、感染対策における情報発信においても、中心的役割を果たしてきています。さらに、大学病院に課せられた（期待される）役割は、感染症対策・対応のみでなく、高度医療、高次救急、先進医療におよび、かつ、医師養成のための臨床教育も担わねばなりません。しかし、大学病院の医療機関としての運営実態に目を転じますと、これらの役割を果たすための、十分な体制が整備されているとは言い難いのが現状です。これには現行の診療報酬制度が、大学病院の使命を果たしうる財政的基盤を支えるには十分ではないことが一因であると思います。

本委員会は、診療報酬の根幹をなす、DPC（包括評価支払制度）に関するワーキンググループ(WG)と経営実態・労働環境WGからなり、「大学病院の医療」に関する諸課題を明らかにし、これに対する対応策について考え、厚生労働省とも情報交換、意見交換をしながら、その社会的使命を果たせるように、大学病院全般にわたる業務改善と機能の充実を図ってまいります。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■合同委員会開催：

大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG（富山）

（協力：富山大学）

日 時：令和6年11月7日（木）～8日（金）

議 題：1. 令和6年度の診療報酬改定の影響と課題
2. 次回改定への要望事項の検討
3. その他

DPC（包括評価支払制度）に関する WG



座長

新潟大学 元病院長
富田 善彦

委員

森野 禎浩（岩手医科大学）
平松 祐司（筑波大学）
汲田伸一郎（日本医科大学）
酒井 謙（東邦大学）
松山 幸弘（浜松医科大学）
佐和 貞治（京都府立医科大学）

勝間田敬弘（大阪医科薬科大学）

永井 敦（川崎医科大学）
野村 政壽（久留米大学）

オブザーバー

南谷 佳弘（秋田大学）
小山 信彌（東邦大学）
松田 晋哉（産業医科大学）

I. 活動内容

大学病院は、研究、教育の場であるとともに、臨床においても最後の砦であることが、新型コロナウイルス感染症対応を通して、認知されたところかと思います。その大学病院が病院機能を十分に発揮し、社会的使命を果たすためには、財政基盤がしっかりしたものであることが必要です。いうまでもなく、大学病院の財政収支において、収入の最も大きい部分を占めるのが診療報酬であり、その根幹をなすのがDPC（包括評価支払制度）となります。本ワーキンググループ（WG）では、DPCと大学病院の診療報酬全般の諸課題を抽出し、要望という形で、厚生労働省へ上申してまいります。

具体的には2024年6月に改訂された診療報酬で、大学病院の経営にどのような影響、結果が出ているのかを取りまとめ、新型コロナウイルス感染症等の感染症への対応や、医師の働き方改革への対応も視野に入れた形の要望を、委員の皆様と議論を進め、策定したいと思います。また、策定にあたっては、厚生労働省とも密接に情報、意見交換を行い、議論を進め、次回の診療報酬改定に反映させられるように丁寧に対応してまいります。

皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■合同委員会開催：

大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG（富山）
（協力：富山大学）

日 時：令和6年11月7日（木）～8日（金）

議 題：1. 令和6年度の診療報酬改定の影響と課題
2. 次回改定への要望事項の検討
3. その他

■アンケート調査：

「令和6年6月の医療機関別係数調査」

期 間：令和6年6月3日（月）～6月17日（月）

対 象：会員国公立病院長

結 果：会員病院長へ送付

「大学病院の経営に関するアンケート調査」

期 間：令和7年2月25日（火）～3月26日（水）

対 象：会員病院長

結 果：会員病院長へ送付予定

経営実態・労働環境 WG



座長

富山大学 副学長
林 篤志

委員

森野 禎浩 (岩手医科大学)
平松 祐司 (筑波大学)
遠藤 格 (横浜市立大学)
富田 善彦 (新潟大学)
池内 浩基 (兵庫医科大学)
杉山 隆 (愛媛大学)
平井 俊範 (熊本大学)

オブザーバー

小山 信彌 (東邦大学)

I. 活動内容

この度、全国医学部長病院長会議（AJMC）の経営実態・労働環境ワーキンググループの座長を拝命いたしました富山大学の林です。前任の相良先生がまとめて来られた仕事を発展させ、継続して参る所存ですので宜しくお願い致します。

大学病院は、特定機能病院としてすべての診療機能を有し、医療安全等に経費も要する上、コロナ関連補助金がなくなり、光熱水費が著しく上昇し、物価も高騰し、さらに医師の働き方改革に伴う人件費増加も加わり、かつてないほど厳しい経営状況となっています。

このような状況においても、我々は前に進んでいく必要があります、そのために「大学病院に勤務する医師の待遇改善の取組」「医師の労働時間短縮計画に向けた取組」「研究および教育のエフォート増加に対する取組」「産業保健の仕組みの活用状況」「タスクシェア、タスクシフトに対する取組」「地域医療の支援状況」「女性医師等への支援状況」等に関するアンケート調査を行います。これらの調査の結果から、全国の大学病院の状況を把握し、今後のあるべき姿、どう変化していかなければいけないかなど、各大学病院の参考となるようにしたいと思います。文部科学省や厚生労働省の意見も取り入れ、目的達成のために活動して参りたいと思います。会員の皆様方の多大なるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■WG開催：

日 時：令和7年1月14日（火） 15：30～17：00

議 題：1. 令和7年度の大学病院経営実態調査について
2. その他

総務委員会



委員長

神戸大学 前病院長
眞庭 謙昌

委員

渡辺 敦 (札幌医科大学)
佐々木真理 (岩手医科大学)
平松 祐司 (筑波大学)
吉崎 智一 (金沢大学)
間瀬 光人 (名古屋市立大学)
池内 浩基 (兵庫医科大学)
豊岡 伸一 (岡山大学)
石竹 達也 (久留米大学)

I. 活動内容

昨年に引き続き総務委員会の委員長を仰せつかっております神戸大学医学部附属病院の眞庭謙昌と申します。何卒よろしくお願い申し上げます。

私は4年前に病院長に就任しましたが、当初2年間は、新型コロナウイルス感染拡大に翻弄されました。そうした状況下において全国医学部長病院長会議からの情報提供はとても心強いものでしたが、当時は対面での情報交換は叶わず、そうした機会の重要性をつくづく実感することにもなったように思います。幸い、本感染症も5類に変更になり、この1年は対面場で皆様から貴重な情報をいただき、改めてありがたく感じている次第です。

この1～2年は物価高、人件費のアップ、それに医師の働き方改革が絡む形で、大学病院の経営も厳しさを増しており、こうした状況の中での情報共有、連携は益々重要になってきております。総務委員会におきましては、特定の委員会の枠を越える問題、課題を中心に対応、調整を担っています。まずは会長、副会長をしっかりと補佐し、皆様方と密に情報を共有させていただいたうえで、課題解決に努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和7年3月6日(木)～3月14日(金) メール審議
議 題：旅費交通費の支給に関する内規の一部改定について

日 時：令和7年3月24日(月)～3月31日(月) メール審議
議 題：美容外科医による不適切行為に関する声明文案について

臨床研究・利益相反検討委員会



委員長

横浜市立大学 教授
寺内 康夫

委員

渥美 達也 (北海道大学)
種市 洋 (獨協医科大学)
花岡 英紀 (千葉大学)
南學 正臣 (東京大学)
吉田 雅幸 (東京科学大学)
岩田 仲生 (藤田医科大学)
波多野悦朗 (京都大学)
鶴田 大輔 (大阪公立大学)
西岡 安彦 (徳島大学)

I. 活動内容

臨床研究・利益相反検討委員会では、臨床研究や個人・組織の利益相反の管理のあり方を示すとともに、臨床研究について文部科学省、厚生労働省、製薬協、日本医学会などの関連団体と意見交換を積極的に進めました。

令和6年度の事業として、昨年度に引き続き、①企業が関与する講演会等において企業側がスライドをチェックする件の検討と改善策の提案、②医学研究の発展のために必要な奨学寄附金に関する検討、③AJMCが示す利益相反および臨床研究に関する各種ガイドラインや指針の改訂、④会員施設において円滑に臨床研究が推進されるよう臨床研究法の問題点の抽出や組織における利益相反に関する現状把握のためのアンケートを作成しました。

令和6年より寺内が日本医学会利益相反委員会副委員長、日本医療機能評価機構診療ガイドライン選定部会委員に就きましたので、日本医学会・日本医療機能評価機構と歩調を合わせながら、アカデミアにおける利益相反管理の理解と適切な実践を推進しやすい状況となりました。

今後もアカデミア研究者の立場に立った環境整備と企業との適切な関係、日本医学会や日本医療機能評価機構と連携した利益相反管理を提案したいと思います。ご協力とご支援をお願いします。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年8月30日(金)16：00～17：00

議 題：今後の活動方針について

日 時：令和7年1月7日(火)14：00～15：00

議 題：1. 今年度の委員会活動計画について

2. アンケート調査について

3. ガイドラインの見直しについて

4. 企業主催講演会の今後の対応について

■アンケート調査：

「令和6年度臨床研究法施行後の研究推進に関する現状アンケート調査」
「令和6年度製薬企業等からの謝金等の受領の在り方に関するアンケート調査」

「令和6年度組織COIに関する調査」

期 間：令和7年3月13日(木)～4月18日(金)

対 象：会員

結 果：会員に送付(予定)

男女共同参画推進委員会



委員長

東京医科大学 ダイバーシティ
推進センター長 主任教授
林 由起子

委員

東 信良 (旭川医科大学)
名越 澄子 (埼玉医科大学)
本多 祥子
(東京女子医科大学)
前田 佳子
(東京女子医科大学)
萬 知子 (杏林大学)
藤枝 重治 (福井大学)
秋山 治彦 (岐阜大学)
梅田 朋子 (滋賀医科大学)
川股 知之
(和歌山県立医科大学)
砂田 芳秀 (川崎医科大学)
香美 祥二 (徳島大学)
磯部 紀子 (九州大学)

I. 活動内容

本委員会は、会員大学の医師が属性によらず、あらゆる分野で輝いて活躍できる環境整備を目指しています。わが国における医師の労働時間、診療科選択、キャリア形成などの就労状況は、女性医師のキャリア形成の課題のみならず、働き方改革や介護負担などにより、劇的に変化が続いています。本委員会では令和2年度から隔年で会員大学ならびに医師に対する意識調査を行い、誰もが輝いて活躍するために、以下の4つを提言してきました。

1. 性別役割分担意識の是正と男女共同参画体制の推進
2. 家事、育児、介護などの家庭生活を支援する社会基盤の充実
3. 長時間労働の是正と業務内容の効率化
4. 大学・大学病院に勤務する医師の経済的基盤の充実

令和6-7年度は労働時間、職場環境、生活基盤などの働きやすい環境整備が前進したか、これまでの意識調査と比較するとともに、介護休暇制度や男性の育児休暇取得体制など、更なる改善の方向などについての調査・分析することで、働きがいのある環境整備を推進するための提言を行う予定です。

今後も、これまでの当委員会活動が積み重ねてきた成果を更に発展させてまいりたいと思いますので、引き続きご指導とご支援をお願い致します。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年12月17日(火)17：30～18：00

議 題：1. 委員会名称の変更について

2. 男女共同参画アンケート調査の実施について

広報委員会



委員長

慶應義塾大学 医学部長
金井 隆典

委員

渡辺 敦 (札幌医科大学)
永瀬 智 (山形大学)
森 茂久 (埼玉医科大学)
坂元 亨宇 (国際医療福祉大学)

I. 活動内容

昨年度に引き続き広報委員会委員長を拝命いたしました。広報委員会の役割は、全国医学部長病院長会議における活動を、広く社会にわかりやすく広報していくことにあります。我が国を含む世界中の医学・医療を取り巻く環境は激変しており、本会議の活動は、医療界のみならず、行政や産業界をはじめ、国民の皆さまに対して非常に大きな責任を担っています。本会議の活動の内容や成果を、ホームページ、広報誌、記者会見などを通じて、できるだけわかりやすい言葉で、正確かつ迅速に、広く広報していくことは大変重要な責務であると考えています。ホームページにおける情報発信を、よりわかりやすく、見やすくするために、つねに改善を加えて行きたいと思います。さらに、本会議の方向性やメッセージ、声明などについても、皆さまのご理解が得られるよう、皆さまに見えるかたちで活動を行っていききたいと思います。是非、よろしくお願い申し上げます。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■記者会見：

日 時：令和6年9月11日(水) 10：00～

テーマ：大学病院における医師の働き方に関するアンケート調査結果について

■定例記者会見：

第1回 令和6年4月26日(金) 16：30～

第2回 令和6年11月29日(金) 17：00～

■発刊物（予定）：令和7年4月 「広報 No.77」

被災地医療支援委員会



委員長

東北大学 病院長
張替 秀郎

委員

渥美 達也 (北海道大学)
袴田 健一 (弘前大学)
齋藤 繁 (群馬大学)
大坪 毅人
(聖マリアンナ医科大学)
松山 幸弘 (浜松医科大学)
丸山 彰一 (名古屋大学)
高折 晃史 (京都大学)
東田 有智 (近畿大学)
椎名 浩昭 (島根大学)
香美 祥二 (徳島大学)
中村 雅史 (九州大学)
三浦伸一郎 (福岡大学)

I. 活動内容

本委員会は、東日本大震災による被災地への医療支援を取り扱う委員会として創設されました。本委員会の主な目的は、東日本大震災のような大災害が起こった際に被災地からの医療支援要請に応じて、AJMCや日本医師会など23組織（42団体）から構成される被災者健康支援連絡協議会と連携し、医師の派遣など被災地に必要な医療を提供することです。

昨年初頭の能登半島地震以降、本委員会が対応すべき大きな災害は発生していませんが、国内・周辺地域での地震の発生は引き続き高い可能性で予想されています。また、気候変動による集中豪雨も多く経験されており、最近では青森県の豪雪に対する災害救助法の適用など局所的な災害の頻度も高まっています。これら災害に対し、迅速かつ適切な対応がとれるよう、委員会として何をすべきかを平時から意識し、委員の方々と準備しておきたいと考えております。

災害の発生時には、AJMCの会員の皆様には多くのご負担をお願いすることとなりますが、国民の命・生活を守るためにご協力の程よろしくお願い申し上げます。

医師の働き方改革検討委員会



委員長

岡山大学 病院長
前田 嘉信

委員

張替 秀郎 (東北大学)
大鳥 精司 (千葉大学)
東田 修二 (東京科学大学)
小山 信彌 (東邦大学)
相良 博典 (昭和医科大学)
明石 勝也
(聖マリアンナ医科大学)
森 正樹 (東海大学)
富田 善彦 (新潟大学)
吉川 公彦
(奈良県立医科大学)
尾崎 誠 (長崎大学)

I. 活動内容

2024年4月より医師の働き方改革が本格的に始まりました。2035年度末を目標にB水準・連携B水準を終了させるため、勤務時間短縮の取り組みを進める必要があります。

働き方改革開始後のモニタリングのため、各大学病院を対象にアンケートを行ったところ、チーム制の導入や勤務時間内の患者説明に取り組んだことにより、勤務時間の削減が進んでいる一方、勤務時間削減の影響が診療・研究・教育全般に及び、特に研究時間の確保が難しくなり、研究力低下を懸念する声が強まっていることが分かりました。また、医療の質を維持しながら業務負担を軽減するための人員不足、医師事務作業補助者や特定行為研修修了看護師の確保が課題となっています。

本委員会では、記者会見や国との懇談会等を通じて、医師や医師をサポートする人材の給与・無期雇用化等の待遇改善や医師の教育・研究活動をサポートする人材の養成等の人的支援と、ICTを活用した教育・臨床研究支援、耐用年数を超過した研究設備の更新のための支援等が必要であると訴えてまいりました。

今後も、働き方改革の進展を注視つつ、医療の質を維持し、持続可能な医療提供体制の確立に向けた施策を検討したいと思います。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催：

日 時：令和6年8月21日(水) 10:30～12:00

議 題：1. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について
2. 今後の活動方針について
3. その他

■アンケート調査：「医師の働き方改革に関するアンケート調査」

期 間：①令和6年4月17日(水)～5月31日(金)

②令和7年1月8日(水)～2月28日(金)

対 象：会員病院長

結 果：会員に配布

医学部・医科大学の白書調査委員会



委員長

秋田大学 医学部長

羽瀨 友則

委員

齋藤 豪 (札幌医科大学)

坂東 良雄 (秋田大学)

藤森 敬也
(福島県立医科大学)

松藤 千弥
(東京慈恵会医科大学)

小風 暁 (昭和医科大学)

泉 美貴 (昭和医科大学)

佐藤 昇 (新潟大学)

岩淵 邦芳 (金沢医科大学)

高橋 智
(名古屋市立大学)

笠井 謙次 (愛知医科大学)

上本 伸二 (滋賀医科大学)

景山 誠二 (鳥取大学)

西山 成 (香川大学)

田中 文啓 (産業医科大学)

野口 満 (佐賀大学)

猪股 雅史 (大分大学)

盛武 浩 (宮崎大学)

アドバイザー

奈良 信雄 (順天堂大学)

I. 活動内容

全国医学部長病院長会議 (AJMC) では1993年から2年ごとに「わが国の大学医学部・医科大学白書」を調査・発行しています。本白書は、「大学の評価体制・組織運営」、「医学教育」、「臨床研修」、「大学院と研究」、「大学附属病院」、「社会および地域への貢献」、「国際交流・貢献」の分野に分けて、質問を作成し、調査した内容を整理、まとめています。その質問項目は膨大かつ多岐に亘ります。

本白書に求められるものは、調査内容の継続性から医学部・医科大学の時代の変遷をつかみ取ることと、加えて時代に相応した調査内容の検討から、最新の状況や取組みを把握することであると考えます。本白書には、それぞれの大学や附属病院で懸案となっている課題に関して、全国の大学の現状を把握し、他大学との比較等を通して、皆様の今後の大学運営や病院運営に役立つ内容が豊富に含まれています。さらには2020年度版からは学生へのアンケート、2022年度版からは臨床研修医へのアンケート調査結果も本白書に盛り込んでおり、学生や臨床研修医の生の声も知ることができます。

このように、本白書は重要なメッセージを発信してきましたが、2021年4月に「医学部・医科大学の白書調査委員会」として独立、立ち上げることがAJMC理事会で決定されました。この重要な本委員会委員長を2022年春から仰せつかり、身の引き締まる思いであります。本白書の制作にあたっては各大学には膨大なアンケート調査という大きなご負担をお願いしています。それだからこそ、各大学の皆様が参考にし、大いに活用していただける調査内容と白書にしたいと考えております。関係各位からのご指導とご協力をお願いいたします。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■委員会開催

日 時：令和6年7月8日(月) 17:00～18:00

議 題：1. わが国の大学医学部・医科大学 白書 2024 の調査について
2. その他

日 時：【全体会議】 令和6年8月23日(金) 16:00～19:00

【基本情報・第1章】 令和6年7月26日(金) 9:30～11:30

【第2章】 令和6年7月31日(水) 13:00～15:00

【第3章】 令和6年7月26日(金) 16:00～18:00

【第4章】 令和6年8月8日(木) 9:00～11:00

【第5章】 令和6年8月5日(月) 10:00～12:00

【第6・7章】 令和6年7月30日(火) 10:00～12:00

議 題：令和6(2024)年度「わが国の大学医学部・医科大学 白書調査」のブラッシュアップ

日 時：【全体会議】 令和7年4月3日(木) 15:30～19:00

【基本情報・第1章】 令和7年3月14日(金) 10:00～12:00

【第2章】 令和7年3月13日(木) 10:00～12:00

【第3章】 令和7年3月10日(月) 17:15～19:00

【第4章】 令和7年3月14日(金) 15:00～17:00

【第5章】 令和7年3月18日(火) 13:00～15:00

【第6・7章】 令和7年3月11日(火) 10:00～12:00

議 題：1. 令和6(2024)年度「わが国の大学医学部・医科大学 白書調査」の集計結果について
2. その他

■アンケート調査「わが国の大学医学部・医科大学白書 2024調査」

期 間：令和6年9月24日(火)～12月16日(月)

令和6年10月31日(木)～12月27日(金) 臨床研修医、学生アンケート

対 象：会員医学部長、会員病院所属の臨床研修医、医学部医科学学生等

結 果：冊子にて配布予定

カリキュラム調査委員会



委員長

聖マリアンナ医科大学
特任教授

伊野 美幸

委員

蒔田 芳男（旭川医科大学）

佐々木真理（岩手医科大学）

長谷川仁志（秋田大学）

森 茂久（埼玉医科大学）

山脇 正永（東京科学大学）

中村真理子
（東京慈恵会医科大学）

鈴木 利哉
（大学改革支援・学位授与機構）

藤枝 重治（福井大学）

鬼形 和道（島根大学）

瀬尾 宏美（高知大学）

安元 佐和（福岡大学）

アドバイザー

奈良 信雄（順天堂大学）

I. 活動内容

本委員会はAJMCの調査研究事業として、全国医学部のカリキュラムの現状調査を担当しております。AJMCのカリキュラム調査の歴史は古く、1975年より「医学教育カリキュラムの現状」として隔年で報告書を発行しております。

我が国の医学教育は、時代による変遷を重ね、かつて2023年問題と言われたWFMEのグローバルスタンダードに準拠した医学教育分野別評価も、現在では全国82校全ての医学部が受審を終え、JACMEにより認定されています。また、共用試験公的化、医師法改正による診療参加型臨床実習の更なる充実および卒前卒後教育のシームレス化に加え、働き方改革や医療DXを見据えた教育の在り方など、社会や医療を取り巻く様々な影響を受けながら日進月歩で改革が続けられております。

令和4年度改訂版の医学教育モデル・コア・カリキュラムが示すように、時代に沿った医療ニーズに対応出来る医師の育成が益々医育機関に求められており、今後も引き続き医学教育改革の動向の把握に資するよう、我が国の医学教育カリキュラムについての公的調査の役割を遂行する所存です。

アンケート調査につきましては、御多忙にもかかわらず各大学医学部関係者の皆様にご回答をいただきまして、心より御礼申し上げます。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

II. 活動報告（R6.4月～R7.3月）

■発刊物：令和6年5月「医学教育カリキュラムの現状」

■委員会開催：

日 時：令和7年1月16日（木）15：00～16：00

議 題：「令和7年度 医学教育カリキュラムの現状」の課題特定について

医療に関する懇談会—日本医師会・全国医学部長病院長会議—



委員長

昭和医科大学 病院長
相良 博典

委員

古川 博之 (旭川医科大学)
羽瀧 友則 (秋田大学)
張替 秀郎 (東北大学)
南學 正臣 (東京大学)
東田 修二 (東京科学大学)
木下 浩作 (日本大学)
林 由起子 (東京医科大学)
金井 隆典 (慶應義塾大学)
河野 博隆 (帝京大学)
寺内 康夫 (横浜市立大学)
伊野 美幸 (聖マリアンナ医科大学)
富田 善彦 (新潟大学)
関根 道和 (富山大学)
林 篤志 (富山大学)
大嶋 勇成 (福井大学)
木村 宏 (名古屋大学)
熊ノ郷 淳 (大阪大学)
眞庭 謙昌 (神戸大学)
前田 嘉信 (岡山大学)
大屋 祐輔 (琉球大学)

I. 活動内容

全国医学部長病院長会議 (AJMC) は大学医学部および附属病院の責任者を社員として、医学部が日本の医学・医療を担う人材育成という目的達成というアカデミアの責任を果たすために重要な役割を担っています。この目的を達成するため日本の医療に携わっている団体としての日本医師会と情報を共有し、連携することは重要です。AJMCは2005年(平成17年)から年2～3回、日本医師会と意見を交換する懇談会を開催しています。AJMCが取り組んでいる医学教育の改善、医療安全の推進、医師の働き方改革、医学研究体制整備を進め研究成果をあげることなど幅広く日本医師会と話し合い、意見を発信しております。

今後も日本医師会とは連携しつつ、日本の医学部・附属病院がその機能を発揮できるようにします。

II. 活動報告 (R6.4月～R7.3月)

■懇談会開催：

日 時：令和6年9月6日(金) 16：00～18：00

- 議 題：1. 大学病院の医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について
2. 特定機能病院について
3. 医師養成過程を通じた医師の偏在対策等について
4. 医師会組織強化について

日 時：令和7年2月7日(金) 16：00～17：30

- 議 題：1. 大学病院の運営状況について
2. 新たな地域医療構想へ向けて
3. 大学病院の医療機関機能に関するアンケート結果(報告)
4. 医療現場の声を踏まえた医療政策等の実現に向けて

要望・声明・提言等 (令和6年4月～令和7年3月)

全国医学部長病院長会議では、専門委員会・ワーキンググループを中心に論議を重ね、常に社会に向けて情報を発信し、医学教育、研究、医療の様々な問題解決のために、行政等へ「改革の提言・要望」「声明」「調査結果の報告」等を行っています。

※本会議ホームページよりダウンロードできます。

<https://ajmc.jp>

■ 令和6年度大学病院関連要望 ・・・ 47

令和6年6月12日(水)

令和6年12月4日(水)

《提出先》

自由民主党 大学病院を支援する議員連盟会長

■ 医師国家試験に関する要望書 ・・・ 51

令和6年9月10日(火)

《提出先》

厚生労働省 医政局長
医政局医事課長
医政局医事課試験免許室長
文部科学省 高等教育局長
高等教育局医学教育課長

■ 令和6年度 公的化された共用試験に関する要望書 ・・・ 52

令和7年3月27日(木)

《提出先》

厚生労働省 医政局長
文部科学省 高等教育局長
公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 理事長

令和6年度大学病院関連要望

令和6年6月12日

自由民主党

「大学病院を支援する議員連盟」会長 殿

一般社団法人 全国医学部長病院長会議

会長 相良 博典

一般社団法人 国立大学病院長会議

会長 大鳥 精司

一般社団法人 日本私立医科大学協会

会長 炭山 嘉伸

(公印省略)

令和6年度大学病院関連要望

平素より医学教育・研究および医療の改善充実に際してご指導、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

令和5年度につきましては、「経済財政運営と改革の基本方針2023」への記載に伴う令和5年度補正予算および令和6年度予算などの財政的支援をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

医師の働き方改革施行の中で、大学病院における教育・研究・診療の充実・強化は重要な課題であり、特に、国民の健康と福祉を担う医療者の育成は最重要課題であります。

国公私立大学病院全体に関する要望事項を下記のとおり要点を取りまとめて提出させていただきます。

厳しい財政状況下ではありますが、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 医師の働き方改革を踏まえた財政支援について

大学病院においては、医師の働き方改革が施行されても教育、研究といった重要な役割、さらには自院の医療体制の維持から地域の中核的医療機関としての地域医療の維持まで影響が出ないよう様々な対応をしてきたところです。今回、施行後の調査を実施したところ教育・研究時間への影響や医師派遣の取扱いについて検討していると回答してきた大学もありました。大学病院では診療報酬改定を踏まえ、医師等の人材確保に向け処遇改善を検討し、教育や研究の質の向上や医師派遣を維持していこうと考えていますので、引き続きの財政支援を要望いたします。

- (1) 医師派遣を維持するため厚生労働省の「勤務環境改善医師派遣等推進事業、地域医療勤務環境改善体制整備特別事業」の更なる拡充が必要
- (2) 医師の確保が厳しいなか、教育・研究時間を改善していくためには文部科学省の「高度医療人材養成拠点形成事業」の更なる拡充が必要、また、教育・研究時間の改善に伴い診療時間が減少する場合には診療時間相当額等の支援により病院経営を維持していくことが必要

2. 光熱水費をはじめとした物価高騰への財政支援

国内では物価高騰が続いておりますが、医療機関では診療報酬制度の下で診療費用へ価格転嫁することが出来ないため、節減努力で対応してきたところですがそれも限界にきています。大学病院ではエネルギー消費量が多い大型医療機器や使用する診療材料等も多く、他医療機関に比べてその影響は大きなものがありますので物価高騰に対する支援を要望いたします。

3. 医療 DX の推進について

診療報酬改定において、医療 DX の推進に向けて体制整備加算を新たに措置いただいたところですが、大学病院における業務の効率化や質の高い医療の提供と医師の働き方改革を推進していくためには、財政面での支援がなければ、円滑な医療 DX 導入は困難であることから更なる支援を要望いたします。

4. 共用試験実施に伴う財政支援について

令和5年度よりシームレスな医師養成に向け臨床実習前の共用試験が公的化されたことに伴い、医療系大学間共用試験実施評価機構の果たす役割は重要になっており、評価者および模擬患者の養成等に係る費用や各種委員会の設置に伴い当初の見込みを大きく上回り経営を圧迫している状況にあります。機構が公平かつ信頼性を確保しつつ試験を実施していくためには、経営基盤の確立が必要であり、これらに必要な財政支援を要望いたします。

5. 医療機器の整備状況について

大学病院は医学生や臨床研修医等の臨床教育の場として、最新の設備により高度医療人材を養成していく使命がありますが、保有する医療機器等の設備更新は進んでいない状況にあります。令和5年度補正予算で高度医療人材養成事業（附属病院の環境整備）として140億円のご支援をいただきましたが、引き続き大学病院における医学生の教育環境の充実を図るための財政支援を要望いたします。

以上

令和 6 年度大学病院関連要望

令和 6 年 12 月 4 日

自由民主党

「大学病院を支援する議員連盟」会長 殿

一般社団法人 全国医学部長病院長会議

会長 相良 博典

一般社団法人 国立大学病院長会議

会長 大鳥 精司

一般社団法人 日本私立医科大学協会

会長 炭山 嘉伸

(公印省略)

令和 6 年度大学病院関連要望

平素より医学教育・研究および医療の改善充実に関してご指導、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

大学病院において教育・研究・診療の充実・強化を図ることは、医師の働き方改革を推進しながら大学病院の機能である医師派遣や医療者の育成を確実に実施するうえで最重要課題となっております。

つきましては、令和 6 年度補正予算および令和 7 年度予算編成を踏まえ、国公私立大学病院全体に関する要望事項を下記のとおり提出させていただきます。

厳しい財政状況下ではありますが、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 大学病院機能の体制維持のための支援について

- (1) 大学病院では、学部教育から卒後教育まで適切な診断・治療ができる医師の育成や専攻医プログラム等の研修プログラムが充実していることから専門性の高い医療人の養成のために多くの専攻医やコメディカル研修生を受け入れています。また、臨床研究中核病院や各大学病院で設置している臨床研究部門では、難治性疾患の原因解明や新しい診断法・治療法の研究開発を行っています。医療の面でも高度医療の実践として臓器移植や E 難度手術など他の病院の実績を大きく上回って実施していますので、大学病院機能を維持していくため引き続きの財政支援を要望いたします。

(2) 大学病院は医師の働き方改革を推進しつつ機能を維持していくためには人的支援による増員やタスク・シフト/シェアの推進および医療 DX の推進が不可欠でありますので、引き続きの財政支援を要望いたします。

2. 大学病院における医師派遣への支援について

大学病院では、地域医療を支えるために多くの医師を派遣しており、国立大学病院からは 46,363 人の常勤医師の派遣のほか、8,892 医療機関に兼業による派遣、私立大学病院からは 13,543 医療機関に外勤者や出向者 43,291 人を全国に派遣していることから、医師派遣に伴う各大学病院の財政的な負担は非常に大きくなっております。

新たな地域医療構想の中で大学病院の医師派遣機能が求められている中、派遣機能を継続していくためには大学病院としての体制整備を図る必要があります。そのための財政支援及び人的支援を要望いたします。

【文部科学省：概算要求事項】

- 大学病院等における高度医療人材養成・医学系研究の充実
 - ・ 大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化
〔令和 7 年度要求額 50 億円（新規）〕
 - ・ 医学系研究支援プログラム 〔令和 7 年度要求額 26 億円（新規）〕
- 高度医療人材養成拠点形成事業
〔令和 7 年度要求額 21 億円（前年同額）〕

【厚生労働省：概算要求事項】

- 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業
〔地域医療介護総合確保基金事業区分Ⅵ〕
〔参考：令和 6 年度予算 9 5 億円〕
- Ⅱ 地域医療勤務環境改善体制整備特別事業
 - ・ 教育研修体制を有する医療機関への勤務環境改善支援を行う事業
- Ⅲ 勤務環境改善医師派遣等推進事業
 - ・ 長時間労働医療機関へ医師派遣支援を行う事業

以上

医師国家試験に関する要望書

全医・病会議発第 158 号
令和 6 年 9 月 10 日

厚生労働省医政局 局長 森光 敬子 様
文部科学省高等教育局 局長 伊藤 学司 様

一般社団法人 全国医学部長病院長会議
会長 相良 博典
同上 国家試験改善検討ワーキンググループ
座長 河野 博隆

医師国家試験に関する要望書

第 118 回医師国家試験を受験した受験生および全国の大学医学部、医科大学の教員を対象に実施した医師国家試験に関するアンケート調査の結果に基づき、全国医学部長病院長会議として以下を要望いたします。

1. 試験に関する情報公開、受験環境の整備を引き続きお願いする。
2. 難易度の高い専門医レベルの問題は排除し、臨床実習の成果を問う質の高い良質な問題の出題にさらに尽力いただきたい。特に、一般問題には臨床実習の成果と無関係と見なされる問題が多く、共用試験 CBT との違いが明確でない問題も存在することから、その位置付けを明確にしていきたい。
3. 難易度の高い問題および必修問題で正解率の低い問題は採点から除外するなど、受験生の不利にならない適切な処置を引き続き講じていただきたい。
4. 全国医学部長病院長会議が公表した「我が国で求められる医師養成のためのグランドデザインへの提言 - 卒前・卒後のシームレスな医学教育を目指して -」を参考に、医師国家試験の改革に関して、関係機関で検討を続けていただきたい。

令和6年度 公的化された共用試験に関する要望書

全医・病会議発第 280 号

令和7年3月27日

厚生労働省医政局
局長 森光 敬子 様
文部科学省高等教育局
局長 伊藤 学司 様
公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
理事長 栗原 敏 様

一般社団法人全国医学部長病院長会議
会長 相良 博典
同 共用試験検討委員会
委員長 関根 道和

令和6年度 公的化された共用試験に関する要望書

平素より大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

令和3年5月成立の改正医師法により、共用試験合格者の臨床実習における医業が可能となりました。医道審議会医師分科会医学生共用試験部会の「公的化後の共用試験に関する意見」に基づき、試験実施機関として指定された医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が、令和5年度から公的化された共用試験を実施しているところです。

共用試験の公的化により診療参加型臨床実習が実質化された一方、大きな負担が各所に発生しています。大学では、設備・備品費や人件費・旅費等の費用が増大しました。CATOでは、各種委員会、認定評価者講習会、外部評価者の人件費・旅費等の費用が増大した結果、大きな経常損失が発生しました。その結果、各大学の会費に転嫁する形で損失を補填することが必要となり、制度の持続可能性に懸念が生じています。

そこで、全国医学部長病院長会議（AJMC）では、令和5年度の共用試験のあり方に関する要望書を令和6年3月に提出しました。その結果、令和6年10月の医道審議会医師分科会医学生共用試験部会で「令和7年度以降の共用試験に関する意見」が取りまとめられ、令和7年2月のCATOによる医学生共用試験 OSCE 全国説明会において、課題数、評価者、模擬患者等について要望書に沿った形で負担軽減の具体策が提示されたところです。

これらの動向を踏まえ AJMC では、令和6年度に「令和6年度 公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和5年度実績）」を実施しました。その結果、CATO 会費や受験料といった表に出るコスト以外にも、各大学が負担している設備・備品費や人件

費・旅費等といった表に出ないコストも多額であることが明らかとなり、負担軽減の具体策によりコストや労働時間の削減は一定程度あると考えられるが、制度の持続可能性の点から更なる改善が必要であると考えています。そこで、これらの調査結果を踏まえ、今後の共用試験のあり方等について要望書を取りまとめましたので提出させていただきます。

ご検討のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

1. OSCE の課題数、評価者、模擬患者等に関する要望

OSCE の課題数、評価者、模擬患者等について、AJMC からの要望書にある負担軽減策を複数採用いただき誠にありがとうございました。引き続き、負担軽減策についてご検討いただくことを要望します。

2. CATO の財政再建計画と会費に関する要望

今回の CATO における経常損失は、公的化された共用試験の実施に際して、各種委員会、認定評価者講習会、外部評価者の人件費・旅費等の費用が増大した結果であると拝察されます。それにより、各大学の会費に転嫁する形での損失補填が必要となりました。しかし、会費への転嫁は緊急避難的な措置であると認識しており、上記の負担軽減策を実施した場合の財政再建計画を提示いただくとともに、会費を元の水準に戻すことを要望します。

3. 実施大学への支援に関する要望

AJMC が実施した「令和 6 年度 公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和 5 年度実績）」の結果から、令和 5 年度の共用試験（CBT および OSCE）運営に係る経費は大学により異なるものの、最頻値で 1 大学当たり 650 万円程度負担していることが示唆されました。これに CATO 年会費や共用試験受験料を加えた総コストは 1 大学当たり 1,000 万円以上になり、共用試験の持続的实施に困難を生ずる可能性があるかと懸念されます。また、共用試験実施に伴う教職員の時間外業務が殆どの大学で発生していることも明らかとなりました。負担軽減策により総コストや時間外業務は一定程度削減可能と思われますが、このような運営に係る様々な経費に対する財政支援を強く要望します。また、将来的には、共用試験の公平性が担保され、大学における経費負担削減や「働き方改革」の円滑な実施が可能となるような形で、CBT センターや OSCE センター等を設置することを要望します。

以上

懇談会・意見交換会・講演会等

全国医学部長病院長会議では、大学医学部や附属病院での、高度医療人の育成・国民への安全で高度な医療の提供・医学研究の推進・地域医療への貢献など、様々な問題やこれらに関する課題について、協議し相互の理解を深めるとともに意見の統一をはかり、わが国の医学並びに医療の向上に貢献するため、日本医師会・文部科学省・厚生労働省の方々や会員、関係団体と意見交換、懇談会、講演会、説明会等を行っております。

■ 文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会・・・55

- ・ 第34回 令和6年8月29日(木) 開催
- ・ 第35回 令和7年1月15日(水) 開催

■ 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―・・・57

- ・ 令和6年9月6日(金) 開催
- ・ 令和7年2月7日(金) 開催

■ 地域枠制度についての意見交換会・・・59

- ・ 令和7年3月7日(金) 開催

第34回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

第34回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和6年8月29日(木) 13:00～15:00

開催方法：WEB（Zoom）会議

- 議 題：1. 医学教育の現状と課題（文部科学省）
2. 医師の偏在対策等について（厚生労働省）
3. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について
4. 共用試験の公的化に伴う各大学の労働負担・経費負担の軽減策について
5. その他

資 料：

- 資料1 医学教育の現状と課題
資料2 医師の偏在対策等について
資料3 大学病院の医師の働き方改革に関するアンケート調査結果
資料4 共用試験の公的化に伴う各大学の労働負担・経費負担の軽減策について
資料5 出席者名簿

第35回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

第35回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和7年1月15日(水) 10:00～12:00

開催方法：WEB（Zoom）会議

- 議 題：1. 文部科学省関係の令和7年度予算案の概要等について（文部科学省）
2. 令和6年度大学医学部における地域枠等の導入状況（文部科学省）
3. 特定機能病院、地域医療構想、働き方改革について（厚生労働省）
4. 大学病院の医療機関機能に関するアンケートの結果について
5. その他

資 料：

- 資料 1-1 文部科学省関係の令和7年度予算案の概要等について
資料 1-1 （参考資料）令和6年度「高度医療人材養成事業
（大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化）」Q&A
資料 1-2 令和6年度大学医学部における地域枠等の導入状況
資料 2 特定機能病院、地域医療構想、働き方改革について
資料 3 大学病院の医療機関機能に関するアンケートの結果について
資料 4 出席者名簿

医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―

医療に関する懇談会
―日本医師会・全国医学部長病院長会議―
次 第

日時：令和6年9月6日(金) 16:00～18:00

場所：日本医師会館501・502会議室（WEB会議併用）

司 会 日本医師会 常任理事 今村 英仁

1. 開会

2. 挨拶

- ・相良 博典 全国医学部長病院長会議 会長
- ・松本 吉郎 日本医師会 会長

3. 自己紹介

4. 議題（資料提出者）

- （1）大学病院の医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について
（AJMC）前田委員長
- （2）特定機能病院について
（日本医師会）今村常任理事
- （3）医師養成過程を通じた医師の偏在対策等について
（日本医師会）今村常任理事
- （4）医師会組織強化について
（日本医師会）城守常任理事

5. 閉会

釜 范 敏 日本医師会 副会長

医療に関する懇談会
—日本医師会・全国医学部長病院長会議—
次 第

日時：令和7年2月7日(金) 16:00～17:30
場所：日本医師会館501・502会議室（WEB会議併用）

司 会 日本医師会 常任理事 今村 英仁

1. 開会

2. 挨拶

- ・相良 博典 全国医学部長病院長会議 会長
- ・松本 吉郎 日本医師会 会長

3. 議題（資料提出者）

- （1）大学病院の運営状況について
（全国医学部長病院長会議）相良会長
- （2）新たな地域医療構想へ向けて
（日本医師会）江澤常任理事
- （3）大学病院の医療機関機能に関するアンケート結果（報告）
（全国医学部長病院長会議）大屋委員長
- （4）医療現場の声を踏まえた医療政策等の実現に向けて
（日本医師会）城守常任理事

5. 閉会

釜 范 敏 日本医師会 副会長

地域枠制度についての意見交換会

全国医学部長病院長会議 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会
地域枠制度についての意見交換会 プログラム

●趣 旨

地域枠制度等の地域医療に関する最新の話題を共有し、都道府県、大学、地域医療支援センターの関係者間の相互理解を深める。

●日 時

令和7年3月7日(金) 11:00～17:00

●会 場

TKPガーデンシティ PREMIUM京橋ANNEX ホールC

住所：東京都中央区京橋2-7-19 京橋イーストビル5F TEL：03-6263-0617

URL：https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gcp-kyobashi-annex/

●主な参加者

- ・各都道府県の地域医療担当者
- ・各都道府県の地域医療支援センター担当者
- ・各都道府県の大学の地域医療関連講座代表者
- ・厚生労働省医政局医事課担当者
- ・文部科学省高等教育局医学教育課担当者
- ・全国医学部長病院長会議（委員長、委員、事務局）

●内 容

10:30	受 付	
11:00	開 会	総合司会：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 松本 正俊 委員（広島大学地域医療システム学教授）
	委員長挨拶 (5分)	地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 大屋 祐輔 委員長（琉球大学病院長）
11:05	講 演 (各10分)	1. 令和5年度調査の概要（10分） 前田 隆浩 委員（長崎大学総合診療科教授）
11:15		2. 文部科学省ご担当者による講演（10分） 文部科学省高等教育局医学教育課企画官 堀岡 伸彦 様
11:25		3. 厚生労働省ご担当者による講演（10分） 厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長 和泉 誠人 様
11:35		4. 質疑応答（10分）
11:45	グループワーク (120分)	1. グループワークの説明 2. グループディスカッション・昼食 3. グループ内のまとめ
13:45	テーマごとの まとめ (30分)	ファシリテーターは各グループで出た意見を集約 → 発表用スライド作成 ※ファシリテーター以外の方は、休憩時間となります
14:15	休 憩	(10分)

14：25	テーマごとの 発表 (100分)	A) 今後の地域枠定員（地元出身枠含む）をどのように設定するか？ B) 義務だけでなくインセンティブも付与して地域枠医師を誘導したい診療科は？ C) 地域枠からの脱落をこうやって防いだ！ ※1 テーマ約30分（前半：発表15分／後半：質疑応答15分）
16：05	休 憩	(10分)
16：15	総合討論 (40分)	1. 総合討論（30分） 2. 総合討論のまとめ（10分）
16：55	総 括	大屋委員長
17：00	閉 会	

文部科学省 医学教育等関係業務功労者表彰式



文部科学省では、国立・公立・私立大学における医学並びに歯学に関する教育、研究若しくは大学病院の患者診療等の補助的業務に関して、顕著な功労のあった方々を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、さらに医学教育又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、文部科学大臣の表彰を行っています。令和6年度は11月26日に表彰式が挙行され97名が受賞されました。表彰式には本会議の会長も出席し祝辞を述べました。

《 祝 辞 》

令和6年度医学教育等関係業務功労者表彰式にあたり、全国82の医学部・医科大学の学長ならびに医学部長・附属病院長で組織される全国医学部長病院長会議を代表して、ひと言お祝いのご挨拶を申し上げます。

この表彰は、昭和49年から始められたおよそ半世紀に及ぶ歴史と伝統のあるもので、わが国における医学・歯学の教育をより良くするために、文部科学省が力を注いでこられた事業と伺っています。

本日、ここにお集まりの皆様は、国・公・私立大学において医学・歯学系の教育あるいは研究・診療に長年にわたり従事され、顕著なご業績のあった方々であり、その功労を称え、表彰を受けられました。医学教育に携わるものとして、心からお慶び申し上げますとともに、これまでの多大なご尽力に感謝を申し上げる次第です。

この度の新型コロナウイルス感染症のパンデミックへの対応につきましても、全国の医学部・大学病院は、各地域における最後の砦として、コロナ診療と通常診療の両立に努めることが出来ました。

その中において、多くの学びを得る事ができました。それは皆さまのご活躍があってこそ実現できたものと考えます。

日本は少子超高齢社会を迎え、今後、活気ある社会をどのように維持していくかが懸案となっています。また、国外へ目を向ければ、不安定な社会情勢もあり、将来を予想することが容易ではありません。そのような状況にあって、明るい未来を築く希望は、良き教育にこそあるものと思います。

中でも、医学・歯学の教育は、人の生命を左右するだけでなく、生活の質の向上に直結するものです。進歩が著しい医学・歯学の領域にあって、次世代を担う人間性豊かな、質の高い、良き医療人を育成し、社会へ還元することが、私たちの社会的使命であり責任と考えます。

今年の4月から医師の働き方改革が施行され、時間外労働の上限が規制されました。これまで皆さまと共に構築してきた教育実績や研究実績、また地域の中核的な医療機関としての機能を維持しつつ対応していかなければなりません。

これまでの経験を活かし、更なるタスク・シフトなどの業務移管などにご協力いただくことになると考えますので、よろしくお願いいたします。

本日表彰される皆様は、長年、各大学の職場での業務を通じて社会へ貢献されるとともに、医学部・歯学部学生や研修医、専攻医等のご指導にも力を尽くされ、医学教育の質の向上に大いにご貢献いただきました。

今後も日本が世界で一流の医療水準を保ち、国民の健康長寿を実現していくためには、大学における皆さまの役割がますます大きくなっていくものと思います。全国医学部長病院長会議としても、教育・研究・診療の向上に努め、皆さまをサポートさせていただく所存です。

本日は、素晴らしい表彰式を開催していただきましたあべ俊子大臣をはじめ、文部科学省の関係各位に感謝申し上げます。

結びとして、心や身体にご負担がかかりやすい昨今と思いますが、皆さまご自身の健康にも十分にお気をつけいただき、本日の意義深い表彰を契機に、後に続く医療者の模範として、今後も尚一層のご活躍を賜りますこと、そして来年が明るい年になることを願い、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

令和6年11月26日 全国医学部長病院長会議 会長 相良 博典



記者会見・プレスリリース (令和6年4月～令和7年3月)

※本会議ホームページよりダウンロードできます。

<https://ajmc.jp>

◇令和6年4月26日(金) 16:30～

第1回定例記者会見

- テーマ：1. 医師の働き方改革について / 医師の働き方改革検討委員会委員長 馬場 秀夫
 2. 男女共同参画に向けての提言 / 男女共同参画推進委員会委員長 唐澤 久美子
 3. 研究人材の育成に関する諸課題
 / 研究・医学部大学院のあり方検討委員会委員長 熊ノ郷 淳
 4. 医師偏在に対する大学病院の取り組みについて
 / 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会委員長 大屋 祐輔

対応者：横手会長、松村副会長、熊ノ郷委員長、大屋委員長、馬場委員長、唐澤委員長、横山事務局長

概要：令和6年1～2月に行った医師の働き方改革に関するアンケート調査結果の内容、3月末に取りまとめた医学部・大学病院における男女共同参画に向けての提言。研究力の低下から見えてくる諸問題や医師偏在対策への大学病院の取り組み状況について資料を基に説明を行いました。

資料：以下HP参照

- ・令和6年度 第1回定例記者会見資料
- ・出席者一覧



◇令和6年9月11日(水) 10:00～

定例記者会見

テーマ：大学病院の医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について

／医師の働き方改革検討委員会委員長 前田 嘉信

対応者：相良会長、前田委員長、横山事務局長

概要：令和6年4月から時間外労働の上限規制が適用されたことに伴い、各大学病院の取組状況およびその影響についての調査を実施し、その結果や課題について説明を行いました。

資料：以下HP参照

- ・大学病院の医師の働き方改革に関するアンケート調査結果
- ・出席者一覧



◇令和6年11月29日(金) 17:00～

第2回定例記者会見

テーマ：1. 医師偏在に対する大学病院の取り組みについて

／地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会委員長 大屋 祐輔

2. 大学病院の現状と課題

／会長 相良 博典

対応者：相良会長、大屋委員長、前田委員長、横山事務局長

概要：医師偏在対策の取り組み状況や現在検討されている新しい地域医療構想に関して大学病院に求められる機能（医師派遣や医育機関としての評価）や教育、研究、医療及び大学病院の経営状況と課題について説明を行いました。

資料：以下HP参照

- ・令和6年度 第2回定例記者会見資料
- ・記者会見次第



東京慈恵会医科大学

(私立大学)

東京慈恵会医科大学 学長 松藤 千弥

本学の起源は、ロンドンのセント・トーマス病院医学校で正規の医学教育を受けた高木兼寛が、1881年（明治14年）に開設した成医会講習所にさかのぼります。当時、明治政府が医学の近代化を目指し、ドイツ医学を導入して全国に広めていったのに対し、本学は創設当初からイギリスの伝統に基づく全人的医療と臨床中心の医学を実践し、独自の道を歩んできました。建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」は、学内に深く浸透し、強い母校愛や一体感、教育熱心な学風を生み出しています。

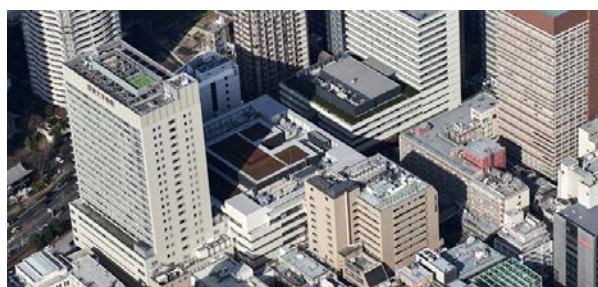
高木兼寛は、セント・トーマス病院で見聞したナイチンゲール看護学校を手本に、日本初の看護婦教育所を開設したことで知られています。その流れを受け継ぎ、1992年には医学部看護学科が開設されました。本学では、医学生と看護学生が共に学ぶ授業が重視され、部活動にも一緒に参加するなど、密接な交流が図られています。

本学の中核である西新橋キャンパスは、東京都港区という好立地に位置します。2020年にかけてキャンパスの再整備が行われ、附属病院の外来棟を中心に、病院と教育・研究施設が一体化した環境が整いました。また、多摩地区にある国領キャンパスには、医学科の初年次教育と看護学科のための校舎および運動施設が設置されています。隣接する第三病院は、2026年1月に「(仮称) 東京慈恵会医科大学西部医療センター」としてリニューアルオープンする予定です。

本学は、1996年に6年一貫の統合型医学教育カ

リキュラムを導入し、講座とは別の枠組みで教育を行う「コース・ユニット制」のもとで教育改革を進めてきました。臨床実習の拡充も段階的に進められ、現在では4年次の9月から1年間の全科臨床実習、続いて1年間の診療参加型臨床実習が行われています。さらに、意欲的な学生には、研究参画、国際交流、教養系の継続学習を含む自由度の高い学習機会を提供しています。

研究面では、講座の特色ある医学研究と、総合医科学研究センターが推進する先端分野の研究を、部署間の垣根が低い本学の特性を活かして有機的に結びつけています。研究推進センターは、研究アドミニストレーションと臨床研究支援機能を兼ね備え、研究計画の立案から社会実装までを支援します。外来棟に設置された細胞加工施設（JIKEI-CPF）は、再生医療・細胞治療・免疫治療の開発と実践の場として活用されています。臨床講座の実験施設は医局棟内に集約され、研究者同士の交流の場としても機能しています。これらの研究環境の整備による成果は、研究費の獲得、発表論文の質・量、知的財産の創出、産学連携、大学発ベンチャー企業の設立といった指標にも現れ始めています。



西新橋キャンパス



国領キャンパス

東京慈恵会医科大学附属病院 病院長
小島 博己

当院は1882年（明治15年）、高木兼寛により設立され、以降140年にわたり建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」にもとづいた医療を実践しています。患者さん一人ひとりのため、そして社会への貢献のために、質の高い医療の実践と医療人の育成につとめ、患者さんやご家族から信頼される病院であり続けることをモットーとしています。外来受診者数は1日平均2,700人、入院患者数は1日平均800人、手術件数は年間約14,000件です。

2023年3月20日に東京都より救命救急センターの認可を受け、脳卒中や急性心筋梗塞、多発外傷、薬物中毒、熱傷などの緊急性や専門性の高い疾患、また他の医療機関では対応できない重篤患者に対して、24時間体制で総合的な医療を提供する体制を整えました。2024年度にはE-ICU（救急用の集中治療室）の新設や、救急室のさらなる整備を行い、より一層充実した救命救急センターとなりました。

当院の手術室が有する血管撮影装置・ナビゲーション併設手術室は、ロボティックテクノロジーを応用しており、より質の高いイメージガイド下手術を脳神経外科、血管外科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科などに提供できる最先端設備を持つ手術室です。また、手術ケアセンターでは手術前の全身状態を管理し、患者さんが安心して手術に臨めるよう、術前教育の充実や効率的な術前評価および術後鎮痛やリハビリテーションにおける質の高い術後管理をチームによって効率的に運用しております。

がん医療では高精度の放射線治療機器などを導入し、さらに最先端医療である細胞治療・再生医療・遺伝子治療に対応するCell Processing

Facilityも備えています。また、生活の質を考慮したがんサポーターブケア、妊孕性温存、就労支援を含む患者さんご家族の社会的なサポートなどに対しても腫瘍センターを中心として取り組んでおります。



外来棟1階

2020年にオープンした外来棟は“患者さんに優しい、高度医療・未来医療に対応できる外来”がコンセプトの空間となっています。オープン直後に新型コロナウイルス感染症がまん延しましたが、外来棟の十分に広く清潔な空間がそのまま厳密な感染対策へとつながり、安全で安心な医療を提供することができました。また、当院外来棟は2023年度に一般社団法人日本医療福祉建築協会が主催する「医療福祉建築賞2023」の栄誉に輝き、「中身と器が見事に調和している"新しいカタチの都市型病院"」として優秀と認められました。

事前会計システム、マイナンバーカードの保険証利用も積極的に行っており、患者さんの待ち時間の短縮など患者サービスに努めております。

多くの患者さんとそのご家族が安心して医療を受けていただけるよう、当院を受診して良かったと言ってもらえるように、職員一同日々尽力してまいります。今後とも慈恵大学病院をご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

慶應義塾大学

(私立大学)

慶應義塾大学医学部 医学部長 金井隆典

1917年、慶應義塾大学医学部は世界的な細菌学者として知られる北里柴三郎博士を初代学部長として発足しました。「基礎臨床一体型医学・医療の実現」を理想に掲げ、“フィジシャン・サイエンティスト”の育成に取り組んでいます。それは、研究能力を備えた医師であり、同時に豊かな人間性と深い知性を有し、確固たる倫理観に基づく総合的判断力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、医学・医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成です。

近年、医学教育は急激に変化しています。医学教育モデル・コア・カリキュラムや日本医学教育評価機構（JACME）が求める医学教育に適合するように、カリキュラムや教育体制を整えてきました。一方で、慶應義塾大学医学部らしい教育とは何かを考え、その部分に力を入れてきました。その2つの柱が自主的な研究活動と国際医療人の育成です。

第1学年では、医学概論のゼミナールやラボツアーで研究を体験します。第2学年では、英語を公用語とする沖縄科学技術大学院大学（OIST）において、10日間のサマーキャンプに20人の学生が参加し、基礎的研究能力を英語で身につける経験をしています。これらの体験を通して、自主的に大学の研究室で研究活動をおこなう学生が20名程度おり、その多くは、研究医養成コース（MD-PhDコース）に所属します。第3学年の「自主学習」では3カ月間の研究室配属をおこない、全員が研究活動をおこないます。そのうち、10名程度は、Johns Hopkins大学、

Columbia大学、OISTなどの学外施設で研究活動をおこなっています。

さまざまな国際交流の機会を提供しています。最大のプログラムは、5年生がおこなう海外施設での1カ月間の臨床実習です。2024年度には、協定校である11カ国18校に、学年の約半数にあたる53人の学生が臨床留学をしました。海外の大学病院で、現地の医学部生や他の国から参加した留学生と切磋琢磨しながら濃密な1カ月を過ごすことにより、学生達は大きく成長して帰国します。この留学は、給付型の奨学金・支援金によってサポートされています。2026年度から始まる新しいカリキュラムにおいては、5年生全員が海外施設で臨床実習をおこなえるように準備しています。また、慶應義塾大学病院では海外からの医学部生に臨床実習の場を提供しています。2024年度は、年間60名程度の留学生を受け入れていました。彼らが参加する臨床実習では、時に、すべてが英語でおこなわれるなど、留学期間以外にも学生が国際的な環境を経験できます。

慶應義塾大学医学部は、優れた医療を実践できるとともに、医学研究や国際医療人として活躍できる人材を育成して参ります。



総合医科学研究棟外観

慶應義塾大学病院 病院長 松本 守雄

慶應義塾大学病院は2020年に開院100年を迎えました。2018年に新病院棟が完成し、既存の病院棟の改修を進めるとともに2022年5月にはエントランス棟と外構も整備され、グランドオープンいたしました。初代病院長である北里柴三郎博士は「各科の分立を防ぎ、基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一 가족の如く、全員^{こぞ}挙って医学の研鑽に努める」ことを目標に掲げました。当院ではこの精神を脈々と受け継ぎ、31の診療科が互いの垣根を無くし、すべての職種が協力して患者の方々にチーム医療を提供するべく努力をしております。治療が極めて困難ながん、免疫、神経、運動器、感覚器、遺伝などの難治性疾患に対しては複数の診療科の専門家チームからなる合計32のクラスター部門が高度な医療を行っています。

2023年度は、延べ患者数外来86万7千人（一日平均3,188人）、同入院30万6千人（一日平均836人）、手術は25室で1万6,742件（うち全身麻酔8,782件）が行われ、Da Vinci 2台、Hinotori 1台、CORI 1台によるがん、心疾患、人工膝関節などのロボット支援手術なども数多く手がけております。専用エレベーターで手術センターおよび集中治療センターと直結された救急センターでは年間約1万6千人の救急患者に対して医療を提供しています。

当院は臨床研究中核病院として基礎医学と臨床医学部門が密に連携しながら日本発の革新的医薬品・医療機器の開発に向けてFirst in Human試験を含む臨床研究や医師主導治験を推進しています。さらに、がんゲノム医療中核拠点病院、地域がん診療連携拠点病院として遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療などのがん診療を提供しています。2018年には内閣府

戦略的イノベーション創造プログラムのAIホスピタルモデル病院に採用され、多くの企業と連携し、AI、ロボット、センサー技術などを用いて患者の方々に先進的な医療サービスを提供するとともに、業務効率化による医療従事者の負担軽減に取り組んでいます。



慶應義塾大学病院外観

2023年11月からは麻布台ヒルズに予防医療センターを拡張移転し、受診者ごとにパーソナライズされた予防医療を提供し、要すればスムーズに病院での治療を行い、丁寧なフォローアップを心がける一気通貫の診療体制を開始しております。

当院は理念の冒頭に「患者さんに優しく患者さんに信頼される患者さん中心の医療を行う」ことを謳っており、教職員が一体となって安全で質の高い医療を提供するとともに医学の発展に貢献したいと思います。

兵庫医科大学

(私立大学)

兵庫医科大学 学長 鈴木 敬一郎

兵庫医科大学は森村茂樹により、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅広い科学的理解」を建学の精神として1972年に創設されました。特色は、建学の精神において「社会の福祉への奉仕」を最初に謳っている点です。これは母体となった武庫川脳病院が精神科主体の病院であり、森村が医療と社会との結びつきを強く意識していたからと思われます。当初から兵庫県養成医師制度に基づく推薦入学制度を実施し、へき地医療を支援してきました。阪神淡路大震災の試練を克服し、先端医学研究所、平成記念会館、PET センター、がんセンターなど時代の流れに即した諸施設を設置し、ささやま医療センターの再建や同一法人内に兵庫医療大学の設立、さらには急性医療総合センターや人間ドック対応の健康医学クリニックの新設、新教育研究棟建設など医学・医療の総合的教育機関として発展してきました。英・Times Higher Education (THE) 誌による「世界大学ランキング日本版2022」では教育リソース分野で 全国第3位、私立大学第1位にランクインしました。そして開学50周年を迎えた2022年4月には「EMPOWER THE PEOPLE」をスローガンに定め、兵庫医療大学を統合し医学部に加え



ラーニングスクエア

て薬学部、リハビリテーション学部、看護学部を擁する医系総合大学として生まれ変わりました。

た。梅田健康医学クリニックも開設し、現在は2026年秋オープン予定の新病院棟建設に取り組んでいます。



教育研究棟

学部教育では開学当時から早期臨床体験実習を実施し、現在では老健、診療所実習、在宅ケアなど低学年からの体系的な医療現場体験、包括協定に基づく関西学院大学キャンパスでの一般教養教育、自分で内容を考える自由選択実習など社会性涵養を重視しています。低学年での合同TBL（チーム基盤型学修）、災害現場での多職種連携、チーム医療演習、多職種連携総合臨床実習など4学部の学生が参加する多職種連携教育を実施しています。またアクティブラーニングではTBLを1年～4年まで独立した科目として導入しています。医学教育センター等による学修支援にも注力しており、高い国家試験合格率に結実しています。ベッドサイドでは臨床教育統括センターを中心に診療参加型臨床実習の充実、卒前・卒後ならびに多職種のボーダレスな教育に取り組んでいます。「英語で学ぶ臨床推論」などの国際性教育、大胆な研究医コース（定員増）なども含め本学の取組はJACME認証評価において「高く評価できる項目」4項目、「評価できる項目」14項目があげられ、オリジナリティが注目されました。

研究面では先端医学研究所の開設をはじめ研究支援に取り組み、論文数や科研費獲得を増やしてきました。2018年度からは全学横断プロジェクト研究「Hyogo Innovative Challenge」事業も開始して実績を挙げています。今後も新しい校章の4つの葉が表す教育・研究・診療・社会貢献の4領域の充実に取り組みます。

兵庫医科大学病院 病院長 池内 浩基

兵庫医科大学病院は1972年4月に精神科が主な診療領域であった武庫川病院を母体として森村茂樹先生により兵庫県西宮市に設立されました。野球で有名な甲子園球場の約1km東に位置しています。現在、当院の病床数は963床で運用されており、2023年度の入院の延べ患者数は289,618人、外来の延べ患者数は549,630人、総手術数は10,324件の特定機能病院となっています。当院には41の標榜診療科とともに、がんセンター、放射線医療センターや私の主な診療領域である炎症性腸疾患センターなど30の中央診療施設があります。胸膜中皮種、斜視、潰瘍性大腸炎、クローン病の4疾患の患者数は本邦では最も多い病院です。

本学は開学50周年時(2022年)に同一法人内の兵庫医療大学と統合し、医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の4学部を擁する医療系総合大学として再出発しました。学生時代からチーム医療の重要性を理解させるため、4学部合同のチーム医療演習も行っています。

昨年より医師の働き方改革が実行されました。医師の労働時間の短縮のためには医療スタッフへのタスクシフトも重要です。本学には他施設にも門戸を開いた看護師特定行為研修課程と認定看護師教育課程がありタスクシフトに必要なパラメディカルに対する教育も積極的に行っていますが、給与面での問題もあり、希望者が少なく、十分数の資格を有した看護師を養成できていないのが現状です。また、他施設と同じように、看護師、看護助手と病院薬剤師の獲得には苦勞しています。

当院は、2026年秋の開院をめざして、同施設内に15階建て801床の新病院棟を建設中です。新病院棟の完成により療養環境は現在よりも大

幅に改善されます。私の任期中に新病院棟への移転も行われますが、十分にシミュレーションを行い、安全な移転を成し遂げたいと思っています。



新病院の外観

兵庫県は公立病院同士や、公立病院と私立病院の合併が積極的に行われている地域です。我々の阪神圏域でも、当院の新病棟の開院とほぼ同じ時期に、西宮市に県立西宮総合医療センター（県立西宮病院と市立西宮中央病院の合併）、伊丹市に市立伊丹総合医療センター（市立伊丹病院と近畿中央病院の合併）が開院されます。患者さんの獲得競争は激しくなりますが、今後は各医療センターの得意な領域は譲り合いながら、地域での共存・共栄を考えていかなければならない時期に来ているのではないかと思います。

事務局だより

《令和7年～令和8年度開催予定》

●令和7年度4月理事会

日時 令和7年4月25日(金)
14:00～16:50
場所 TKPガーデンシティ
PREMIUM秋葉原

●令和7年度定例社員総会

日時 令和7年5月30日(金)
13:00～17:30
場所 都市センターホテル
3F コスモス

●令和7年度11月理事会(予定)

日時 令和7年11月28日(金)
14:00～16:50
場所 TKPガーデンシティ
PREMIUM秋葉原

●令和8年度4月理事会(予定)

日時 令和8年4月24日(金)
14:00～16:50
場所 未定

●令和8年度定例社員総会(予定)

日時 令和8年5月29日(金)
13:00～17:30
場所 都市センターホテル
3F コスモス

《お知らせ》

●各種変更届について

■会員、事務担当者の新任・再任・交代や連絡先等の変更

本会議ホームページ(<https://ajmc.jp>)
会員専用ページよりダウンロードいただき、事務局までメール(info@ajmc.jp)にてお送りください。

●医師臨床研修マッチング関連資料について

本会議・会員専用ページよりダウンロードができます。ご意見等がある場合は、事務局までお知らせください。

尚、具体的な内容については下記、医師臨床研修マッチング協議会へご連絡ください。
医師臨床研修マッチング協議会
(TEL) 03-5512-8130
(FAX) 03-3501-6593

●冊子販売について

ご希望の際は、本会議ホームページ(<https://ajmc.jp>)の会員専用ページにて在庫をご確認の上、申込みタブから、事務局へお申込みください。

『令和5年度(2023)医学教育カリキュラムの現状』・・・定価6,000円
『令和4年度(2022)医学部・医科大学の白書』・・・定価5,000円

※過去の『医学教育カリキュラムの現状』
『医学部・医科大学の白書』
もございますので、お問い合わせください。

《事務局所在地》

- 〒113-0034 東京都文京区湯島 1- 3-11
お茶の水プラザビル 4 階（会議室 8 階）
- TEL 03-3813-4610
- FAX 03-3813-4660
- （事務局 E-mail）info@ajmc.jp
- （アンケート投稿用 E-mail）quest@ajmc.jp
- （ホームページ）https://ajmc.jp

《事務局スタッフ》

事務局長	横山	直樹
参 与	櫛山	博
職 員	石川	潤
	河井	麻美
	白井	知美
	廣田	真理子

（令和7年3月31日現在）

事務局アクセスマップ



発行 令和7年5月

一般社団法人 **全国医学部長病院長会議**

Association of Japan Medical Colleges (AJMC)

〈広報委員会〉

委員長	金 井 隆 典	(慶應義塾大学医学部)
委 員	渡 辺 敦	(札幌医科大学附属病院)
委 員	永 瀬 智	(山形大学医学部)
委 員	森 茂 久	(埼玉医科大学医学部)
委 員	坂 元 亨 宇	(国際医療福祉大学医学部)

〈事務局〉

事務局 長 横山 直樹

広報誌担当 廣田真理子

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-11 お茶の水プラザビル4階(会議室8階)

TEL 03-3813-4610 FAX 03-3813-4660

(事務局E-mail) info@ajmc.jp (アンケート投稿用E-mail) quest@ajmc.jp

(ホームページ) <https://ajmc.jp>